

2018 年度（平成 30 年度）

**聖泉大学看護学部
年次報告書**

領域・委員会

目次

1. 領域活動報告

1-1. 基礎看護学領域	1
1-2. 成人看護学領域	3
1-3. 老年看護学領域	5
1-4. 母性看護学領域	7
1-5. 小児看護学領域	9
1-6. 精神看護学領域	11
1-7. 地域看護学領域	13
1-8. 在宅看護学領域	15

2. 委員会活動報告

2-1. 教務委員会	19
2-2. 学生委員会	21
2-3. 国家試験対策委員会	23
2-4. 実習調整委員会	25
2-5. FD委員会	27
2-6. 研究促進委員会	29
2-7. 学術誌編集委員会	31
2-8. 広報委員会	33
2-9. キャリアアップセンター	35
2-10. 技術項目検討委員会	37

1 . 領域活動報告

1-1. 基礎看護学領域

1. 構成メンバー

小山敦代教授，太田節子教授，流郷千幸教授，鈴木要子准教授，井之口文月講師，大西孝子助教，今井恵助教，高島留美助手，川橋けい子助手

2. 教育活動

1年：「基礎看護論Ⅰ」「生活援助論」「生活援助技術論Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅰ」

「生活援助論」「生活援助技術論Ⅰ」では、各自が事前課題（ビジュアル視聴、手順確認）をした上で授業に臨むよう指導した。演習は成人老年看護学実習室と基礎看護学実習室を使用して、同時に同じ演習ができるよう工夫した。また、演習後にはワークシートを提出させ、患者の立場、技術の工夫点などを考えさせるようにした。技術試験は行わず、コンクール形式でグループに加点されるようにしたことで学生は意欲的に取り組むことができた。

「基礎看護学実習Ⅰ」は一人の教員が1グループを担当するようにし、前半、後半とも彦根市立病院、市立長浜病院で実習を行い、全員が目標達成できた。

2年：「生活援助技術論Ⅱ」「看護過程論」「基礎看護学実習Ⅱ」

「生活援助技術論Ⅱ」「看護過程論」を「基礎看護学実習Ⅱ」に繋げるため「生活援助技術論Ⅱ」は通年、「看護過程論」は後期に開講時期を変更した。また「生活援助技術論Ⅱ」の内容は事例を用いアセスメントし、計画、実施するようにした。「基礎看護学実習Ⅱ」は一人の教員が1グループを担当するようにし、前半は近江八幡医療センターと彦根市立病院、後半は近江八幡医療センターと市立長浜病院で実習を行った。全員が受け持ち患者の看護過程を展開し目標達成することができた。

3-4年：「地域統合実習」「卒業研究」（国家試験対策）

「地域統合実習」は、全員が近江八幡総合医療センターにおいて実習を行い、師長やリーダーのシャドウイング、卒論テーマに関するインタビュー等を実施した。「卒業研究」は、文献検討を行い、論文・抄録をまとめた。国家試験対策は早期に取り組めるよう5-6月にゼミ生を対象とした対策講義を行い、その後は個別のサポートを行った。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 小山敦代：看護がもたらす安楽について，日本統合医療学会誌，11（3），327-333，2018.
 - 2) 小坂橋喜久代，岡田朱民，柳奈津子，内山美枝子，近藤由香，箕輪千佳，荒木大治，桐山勝枝，小山敦代，定方美恵子：看護管理者に知ってほしいリラクゼーション法とその効用，看護管理，28（12），1096-1101，2018
 - 3) 森本恵り子，平田美紀，小山敦代，川嶋元子，國松秀美，千田美紀子，：卒後1年目を対象とした「急変対応」研修の効果，一シュミレーションを取り入れて一，第23回滋賀県看護学会集録集，75-77，滋賀県看護協会，2018.
- 論文)

年次報告書（2018年）領域

- 4) 今井 恵, 伊丹君和: 看護者の腰痛予防対策のためのボディメカニクス教育に関する文献検討, 聖泉看護学研究, Vol.8, 53-57, 2019
- 5) 桶河華代, 高島留美, 松井克奈子, 奥田のり美, 千田昌子, 城ヶ端初子: ナイチンゲールの看護師思想を実践に活かすための研究会の取り組みと課題ー「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」13回~19回例会を中心にー, 聖泉看護学研究, vol.8, 59-65, 2018.

<学会発表>

- 1) 小山敦代: 学生がもつ看護の力, リレーセッション, 看護の力を事例で語る, 日本看護技術学会第17回学術集会, 青森, 2019.9.
- 2) 柳奈津子, 岡田朱民, 内山美枝子, 小山敦代, 定方美枝子, 近藤由香, 箕輪千佳, 桐山勝枝, 荒木大治, 小坂橋喜久代: リラクゼーション法を看護技術として実践するための看護教育の在り方, -リラクゼーション看護講座の実績から-, 日本看護技術学会第17回学術集会, 青森, 2019.9.
- 3) 岡田朱民, 小山敦代, 西山ゆかり: セルフコントロールとしてのリラクゼーションの概念分析, 第22回日本統合医療学会学術大会, 札幌, 2018.10.
- 4) 西山ゆかり, 岡田朱民, 小山敦代, 新田利子: 看護における補完代替医療/療法 (Complementary and Alternative Medicine/Therapy) の実践・教育への導入動機, 第22回日本統合医療学会学術大会, 札幌, 2018.10.
- 5) 松永雄至, 小山敦代: ICUにおける新人看護師が経験する困難と支援, 第38回日本看護科学学会学術集会, 愛媛, 2018.12.
- 6) 桶河華代, 高島留美, 松井克奈子, 奥田のり美, 千田昌子, 城ヶ端初子: ナイチンゲールの看護師思想を実践に活かすための研究会の取り組みと課題ー「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」13回~19回例会を中心にー, 日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会, 32.

<助成金による研究活動>

- 1) 西山ゆかり (代表), 小山敦代, 岡田朱民, 新田利子: 看護における補完代替医療/療法 (Complementary and Alternative Medicine/Therapy) の概念化に関する研究, 科学研究費 (基盤研究C)
- 2) 岡田朱民 (代表), 小坂橋喜久代, 小山敦代: 虚血性心疾患予防のための生活習慣指導への漸進的筋弛緩法の導入, 科学研究費 (基盤研究C)
- 3) 磯邊厚子, 桶河華代, 川嶋元子, 太田節子, 今井 恵, 西垣里志, 坂田直美, 森本恵り子, 聖泉大学 知の拠点 COC+プロジェクト 聖泉版・近江楽座 2018「高齢者と看護学生の地域内交流」地域活性化

4. 地域貢献活動

- 1) 小山敦代: 関西国際大学「代替療法看護論」非常勤講師, 青森県立保健大学大学院「看護教育論」非常勤講師, 国立病院機構保健師助産師看護師実習指導者講習会「実習指導の原理と方法」講師, 滋賀県看護協会新人看護職員研修責任者・教育担当者研修会講師, 「聖泉大学健康づくりリーダー養成講座」講師, 高大連携八幡高等学校・近江兄弟社高等学校・オープンキャンパス模擬授業他
- 2) 今井 恵: 聖泉版・近江楽座 2018 「高齢者と看護学生の地域内交流」地域活性化の貢献「ふくろうの耳」に参加
- 3) 今井 恵: 八幡高校高大連携「バイタルサイン測定」の講師, 1月21日 2019

1-2. 成人看護学領域

1. 構成メンバー

坂田直美教授，中川ひろみ准教授，中島真由美講師，國松秀美講師，山根加奈子助教，馬場好恵助手

2. 教育活動

- 1年：「成人看護論」成人期にある人々の身体的・心理的特徴、発達理論などについて、事例を用いたグループ討議や発表会、PBLを行った、学習到達目標を概ね達成できた。
- 2年：「成人看護技術論Ⅰ」慢性疾患を持つ対象の看護と、事例に基づきアセスメントする課題を課した。「成人看護技術論Ⅱ」急性期疾患を持つ患者の看護について、事例展開やシミュレーション教育および PBL を行った。「フィジカルアセスメント」事例を用いた演習を行い、身体の形態機能の評価、身体診察で捉えた情報を他の情報とあわせてアセスメントできるよう支援した。学習到達目標は概ね達成できた。
- 3-4年：「成人看護技術論Ⅲ」2事例をもとに実習を見据えた PBL を行った。「成人看護学実習（急性期）」「成人看護学実習（慢性期）」事前学習を強化し実習に臨んだ。「ターミナルケア論」学生自身が考えをまとめ終末期における支援を学ぶよう授業を構成した。「災害看護論」災害医療および災害看護の概念を学び、地域住民への減災教育プランを作成し、模擬講習を実施した。学習到達目標は概ね達成できた。
- 4年：「卒業研究」，「地域統合実習」，看護師国家試験対策
ゼミ生 13 名に、看護師国家試験対策講座を年間 4 回開催し、更に個別ゼミを実施した。卒業研究および地域統合実習では、学生のテーマに沿って個別的な教育指導を行った。

3. 研究活動

<論文>

- 1) Nakagawa H., Tukamoto M, Yamashiro K, Goto A. Study of Factors that lead to falls during body position change from a dorsal position to a seated position by nursing students. Digital Human Modeling. Applications in Health, Safety, Ergonomics, and Risk Management: Ergonomics and Design, - 9th International Conference, DHM 2018, Held as Part of HCI International 2018, Las Vegas, USA, July 15-20, 2018, Proceedings, Part I, 205-216. 2018. (査読付)
- 2) Nakagawa H., Tukamoto M, Yamashiro K, Goto A. Motion analysis of simulated patients during bed-to-wheelchair transfer by nursing students and skill acquisition based on the analysis. Digital Human Modeling. Applications in Health, Safety, Ergonomics, and Risk Management: Ergonomics and Design, - 9th International Conference, DHM 2018, Held as Part of HCI International 2018, Las Vegas, USA, July 15-20, 2018, Proceedings, Part I, 193-204. 2018. (査読付)

年次報告書（2018年）領域

- 3) 河村諒, 坪井秀介, 國松秀美, 他 (2018): 東日本大震災後に広域避難した高齢者被災者が生活力量を形成していく過程, 日本災害看護学会誌, 19 (3), 18 - 27. (査読あり)

<著書>

- 1) 公益財団法人日本スポーツ協会監修. 田中喜代次編集, 中川ひろみ (分担執筆). 健幸華齡 (successful aging) のためのスマートライフ. サン・ライフ企画. 2019. 印刷中.
- 2) 西口幸雄監修, 中川ひろみ (分担執筆). ナースのためのストーマ用語辞典. 消化器ナーシング. メディカ出版. 2019. 印刷中.
- 3) 城ヶ端初子編著, 中島真由美 (分担執筆). 「ナイチンゲールの看護思想を実践に活かそう！」 - 「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の学びと歩み -. 24. 2019. 印刷中.

<学会発表>

- 1) Nakagawa H., Tukamoto M, Yamashiro K, Goto A. Study of Factors that lead to falls during body position change from a dorsal position to a seated position by nursing students. 9th International Conference, DHM 2018, Held as Part of HCI International 2018, Las Vegas, USA, July, 2018.
- 2) Nakagawa H., Tukamoto M, Yamashiro K, Goto A. Motion analysis of simulated patients during bed-to-wheelchair transfer by nursing students and skill acquisition based on the analysis. 9th International Conference, DHM 2018, Held as Part of HCI International 2018, Las Vegas, USA, July, 2018.
- 3) 馬場好恵, 本田可奈子, 中西京子: 臨地実習における実習指導者のコンピテンシー, 日本看護研究学会 第44回学術集会 示説 (熊本).

<助成金による研究活動>

中川ひろみ: 科研費基盤研究 (C) 臨床看護学 (2016年~2018年).

山根加奈子: 平成30年度 聖泉大学学長裁量経費 看護学部研究助成費.

聖泉大学看護学部フォーラムにて示説発表

馬場好恵: 平成30年度 聖泉大学学長裁量経費 看護学部研究助成費.

聖泉大学看護学部フォーラムにて示説発表

3. 地域貢献活動

- 1) 中川ひろみ: 本学看護学部キャリアアップセンター. キャリアアップ研修講師, 卒業生研修講師
- 2) 中川ひろみ: 京都橘大学看護教育研修センター教員会委員
- 3) 中川ひろみ: 滋賀創傷セミナー世話人
- 4) 國松秀美: 岡山医療センター. リソースナース研修講師
- 5) 國松秀美: 本学地域連携交流センター. 防災サポーター支援活動
- 6) 國松秀美: 滋賀救急医療研究会世話人
- 7) 中島真由美: 本学看護学部キャリアアップセンター. キャリアアップ研修講師
- 8) 中島真由美: 近江八幡市立総合医療センターでの院内看護研究発表会における講評
- 9) 山根加奈子: 本学看護学部キャリアアップセンター. キャリアアップ (委員)
- 10) 馬場好恵: 看護協会第5地区支部会協力員

1-3. 老年看護学領域

1. 構成メンバー

坂田直美教授, 安田千寿准教授, 森本喜代美講師, 森野美由紀助教, 森本恵り子助手

2. 教育活動

老年看護学領域では、担当教員の変更や基礎看護学の開講時期の変更に伴い、老年看護論、老年看護技術論Ⅰ、老年看護技術論Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱの一部改変を行った。

2年：「老年看護論」（2単位）：認知症看護や回復期看護を後期の技術論Ⅰに回し、高齢者の健康生活を支援する社会システムや老年期の対象理解と捉え方に重点を置いた授業内容に変更した。また、9月に実施する高齢者ケア施設での老年看護学実習Ⅰの導入を図る目的で実習施設の看護職（特養と老健）2名を招聘し、介護保険施設における看護活動の実際について講義をしてもらった。この試みは学生や実習施設ともに概ね好評であった。

2年：「老年看護学実習Ⅰ」（1単位）：昨年と同様に9月に介護老人保健施設（4施設）と特別養護老人ホーム（8施設）にて実施した。今年度は高齢者とのかかわりを通して、高齢者の「生活の営み」について理解を深めることを目的に、高齢者の5側面（からだ、こころ、かかわり、くらし、生きがい）の特徴を知り、生活に及ぼす影響について考えることに焦点をあてた実習とした。学生は看護師やケアスタッフの助けを得ながら高齢者と関わり高齢者の健康生活の特徴やケアの特質、生活の場について理解を深めることができた。

2年：「老年看護技術論Ⅰ」（2単位）：前半に高齢者に多い認知症看護について病態から看護方法まで、後半に回復期看護や高齢者看護における倫理的課題や意思決定支援看護方法など、高齢者の自立・自律を支援する看護方法について教授した。また、本授業では老年看護学実習Ⅰでの学びをベースにしながら、高齢者の尊厳を支える看護とはいかなるものか、なぜそれが重要かについて学生が考えられるように工夫した。ただし、認知症高齢者看護においては、学生の関心や理解を得るための工夫が必要であり、次年度の課題である。

3年：「老年看護技術論Ⅱ」（2単位）：高齢者の健康生活支援看護項目を整理し、それに必要な技術を精選して授業内容を構成した。また、学生が主体的に学びを深めていけるよう、高齢者の特徴についてグループでまとめ、ポスターセッションを試みた。また高齢者の日常生活援助（食事・排泄・活動と休息）の習得には、老性変化や老年症候群をイメージした課題を提示し、グループディスカッションを充実させて援助場面を振り返り学習を深めるように工夫した。しかし、学生は学んだことをディスカッションして深めることや共有するまでには至らなかったため、次年度は更に工夫する必要がある。

3～4年：「老年看護学実習Ⅱ」（3単位）：今年度は、対象の理解に重点をおき、実習計画を次のように変更した。1週目に全体像を捉え看護の方向性を検討し、2から3週目に看護計画の立案、看護援助の実施、評価修正を行うこととした。また、帰校日を月曜日から金曜日に変更し、1週目の終わりに実習目標の達成状況を把握し、次週の実習準備が行えるように支援した。また、3週目は木・金曜日の2日間を学内演習に当て、実習のまとめと記録ができるよう変更した。その結果、大半の学生は実習計画に沿った実習を行うことがで

きた。

4年：「地域統合実習」（2単位）：学生のこれまでの実習を振り返り、更に今後の看護実践能力を高める目的で、老人保健施設、回復期病棟で実習し、「認知症高齢者の思いに寄り添い意思を尊重した援助」、「大腿骨骨折を受傷した高齢者の思いと生活の関連について」をまとめ、報告した。

4年：「卒業研究」：老年看護学ゼミ生は2名で、1名が質的研究を実施し、1名が文献研究を行った。10月の論文の提出後、12月には卒業論文の発表会を行い、研究手法の振り返りや互いの報告の検討を行い、次年度ゼミ生の3年生も発表会に参加し、卒業研究への心構えやイメージづくりに取り組んだ。

3. 研究活動

<論文>

森本喜代美、赤澤千春

訪問看護師による在宅高齢者への続発性リンパ浮腫ケアの実際：大阪医科大学看護研究雑誌 第9巻，2019.

<学会発表>

福澤郁予、小林加代子、岩垣玲子、島中小百合、坂田直美

急性期病院における抑制の適正化に向けた取り組みの評価：第22回日本看護管理学会学術集会、2018.

箕浦洋子、西薊貞子、江川隆子、赤澤千春、日隈ふみ子、青山美千代、森本喜代美、

中堅看護師（ラダー3）のPROG（社会人基礎力測定尺度）評価から継続教育の課題を考える：第22回看護管理学会学術集会、2018.

4. 地域貢献活動

坂田直美

- ・社会福祉法人松風会苦情対応第三者委員
- ・山崎病院、看護倫理研修会講師

安田千寿

- ・平成30年度長浜市湖北地域介護認定審査会委員

森本喜代美

- ・平成30年度聖泉大学キャリアアップセンター主催キャリアアップ講座の講師

1-4. 母性看護学領域

1. 構成メンバー

木村知子教授、漆野裕子助手、中村美由紀助手、戸田美幸助手（育休）

2. 教育活動

2年：「母性看護論」（30時間2単位）では、母子を取り巻く社会や親子・家族関係の変化、母子の権利などの理解を深める授業内容である。本学別科助産専攻の学生（ウイメンズヘルスの授業の1コマとして）による、妊娠適齢期、性感染症、DVなどについての特別授業を組み込んでいる。

「母性看護技術論Ⅰ」（30時間2単位）では、周産期における正常経過と看護について講義を行っている。母性看護学実習につながる授業内容とし、妊娠経過に伴う保健指導内容、分娩経過と看護、産褥経過における心身の変化と看護、正常新生児の生理的变化と看護の視点について一覧表の作成を課題とした。さらに対象理解を目的として、実際の妊婦、産後4～10ヶ月の母子にゲスト講師として、自身のことを話してもらう授業を2コマ取り入れている。

3年：「母性看護技術論Ⅱ」（60時間2単位）では、講義及び技術演習を含む内容とした。講義では、周産期における異常と、正常産褥・新生児の看護過程の展開をウェルネス志向型で行った。初産婦、経産婦それぞれの妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例を作成し、妊娠期および産褥期・新生児期の過程展開を課題とした。また、過程展開から看護につながるよう産褥期・新生児期の標準看護計画を作成させた。技術演習では、3グループに分け、妊婦健康診査に必要な計測、NST モニターの装着と判読、分娩期の産痛緩和と呼吸法、分娩室でのケア、産褥期の、乳房管理、新生児の観察を行った。

「母性看護学実習」（90時間2単位）は、1グループ4～6名、4施設で実施した。学生2名1組で1組の母子を受け持ち、ウェルネス志向型で看護過程を展開した。個別指導に心がけ、終了後数名の学生が記録の補習を必要としたが、全員が目標を達成できた。

4年：「地域統合実習」では、8名のゼミ生が周産期にかかわる地域の病院・診療所・子育て広場・産後ケアセンター等で、妊娠～子育ての切れ目のないケアを学んだ。「卒業研究」では、ゼミ生それぞれのテーマに対しての研究指導を行った。また、ゼミ生8名とその他2名に、進学受験指導を行い、計9名が助産師養成課程（うち4名は別科助産専攻、2名は大学院）に進学した。しかし1名国家試験不合格大学院入学も辞退となった事が遺憾である。

別科助産専攻：木村が、「ウイメンズヘルス」2単位30時間、「助産診断・技術学Ⅲ」のうち2コマ（ベビーマッサージ）を担当した。「助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）、Ⅱ（継続事例実習）」については、漆野、中村がのべ23日、担当した。

4. 研究活動

木村 知子：

- 1) A 総合周産期母子医療センターにおけるエジンバラ産後うつ病自己評価票高得点の背景要因について（共同）、滋賀母性衛生学会誌, 17/18(1), 32-39, 2018

年次報告書（2018年）領域

- 2) 産後1カ月健診時のエジンバラ産後うつ病自己評価票得点に影響する要因、
(共同)、第28回滋賀県母性衛生学会学術集会 口演

漆野 裕子

- 1) 母性看護学における倫理教育に関する文献検討、聖泉看護学研究, Vol18 p 45-52, 2019
2) 夫婦間での家事、育児の役割分担に関する文献研究、聖泉看護学研究, Vol18 p 37-44, 2019
3) ナイチンゲールの看護思想を実践に活かそう!ー「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の学びと歩みー
(城ヶ端初子編著)、分担執筆: 第2部 (p 50), 第4部 (p 151), サンライズ出版, 2019.

中村美由紀

- 1) 木村知子前掲1) (共同)、滋賀母性衛生学会誌, 17/18(1), 32-39, 2018

戸田 美幸

- 1) 長期滞在している在日ブラジル人が妊娠中に活用するソーシャル・ネットワークとソーシャル・サポート、聖泉看護学研究, Vol18p21-28, 2019
2) 公益財団法人中島平和財団 国際学術共同研究助成 アジア地域重点学術研究助成 (分担者)
「スリランカでの農園地域の女性のwell-beingを目指す潜在能力アプローチの実践・福祉の機能リストの構築」2018年4月-2019年3月

4. 地域貢献活動

聖泉大学 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

- ・近江楽座「地域の赤ちゃんと子育てママとほんわかするプロジェクト」 学生19名
- ・アイディアコンテスト「若年妊婦サポートプロジェクト」 学生4名

聖泉大学地域連携交流センター 公開講座

- ・楽しい子育て応援講座 ベビーマッサージ(3回) 孫育て教室(1回)

木村 知子: 滋賀県母性衛生学会 理事 学術雑誌査読委員

滋賀県助産師出向支援協議会(委員長)

滋賀県実習指導者講習会(母性看護学)講師

彦根市立病院 地域医療連携委員会 委員 倫理委員会 審査委員

東近江総合医療センター 地域医療支援病院 委員

滋賀県立八幡高校 評議員

漆野 裕子: 滋賀県母性衛生学会 幹事

第28回滋賀県母性衛生学会学術集会 実行委員

中村美由紀: 第28回滋賀県母性衛生学会学術集会 協力委員

戸田 美幸: 日本国際看護学会 研究委員

聖泉大学地域連携交流センター主催 公開講座「在日外国人への臨床看護師の対応あれこれーグローバルコミュニケーションのすすめ」聖泉大学於 3月23日 2019

5. その他

木村 知子: 看護功績章(滋賀県)

1-5. 小児看護学領域

1. 構成メンバー

流郷千幸教授、平田美紀准教授、鈴木美佐講師、村井博子助手

2. 教育活動

2年：前期に「小児看護論」（30時間）、後期に「小児看護技術論Ⅰ」（30時間）の講義、演習を行った。小児看護技術論Ⅰでは、健康な子どもの発達段階の特徴を踏まえた遊びの意義を理解するために、地域の保育園児を招いて「秋祭り」を実施した。

3年：前期に「小児看護技術論Ⅱ」（60時間）の講義、演習を行った。うち、特別支援学校の実習（2日間）を9月に行った。

3-4年：「小児看護学実習」は保育園実習（2日間）と病院実習（8日間）とし、保育園実習はつくし保育園、八木荘保育園で行い、病院実習は長浜赤十字病院2G、彦根市立病院3G、近江八幡市立総合医療センター3G、滋賀県立小児保健医療センター6Gで行った。

4年：ゼミ生9名に対し、「地域統合実習」、「卒業研究」の指導を行った。地域統合実習は研究テーマに合わせ、野洲養護学校・近江八幡市立総合医療センター（NICU）・滋賀県立小児保健医療センター・八木荘保育園で実習を行った。

3. 研究活動

<学会発表>

- 1) 流郷千幸, 平田美紀, 鈴木美佐, 村井博子, 多職種協働プレパレーションPart2, 日本小児看護学会第28回学術集会(愛知)講演集, p109.
- 2) 平田美紀, 堀田法子, 採血を受ける2歳未満児の付き添いに対する母親の認識, 日本小児看護学会第28回学術集会(愛知)講演集, p199.
- 3) 鈴木美佐, 泊祐子, 慢性疾患をもつ「子どもの病気認知」の概念分析, 日本看護研究学会雑誌, 41(3), p498.

<国際学会発表>

- 1) Chiyuki Ryugo, Medical practitioner's perception of parent attendance and preparation when treating pediatric patients, 6thAPCPN program book, P69.
- 2) Miki Hirata, Nurses' perceptions of support for one-year-olds and their mothers, 6thAPCPN program book, p65.
- 3) Misa Suzuki, Chiyuki Ryugo, Miki Hirata, Educational and psychological support given by mother to children with food allergies, 6thAPCPN program book, p66.
- 4) Hiroko Murai, Chiyuki Ryugo, Research on infant-rearing difficulties experienced by mothers of short stature with small for gestational age, 6thAPCPN program book, p68.

<助成金による研究活動>

- 1) 流郷千幸：多職種協働プレパレーションモデルの開発（科研課題番号：16K12185）
- 2) 鈴木美佐：食物アレルギーをもつ子どもの発達段階別 教育用ツールの作成（科研課題番号：15K11734）
- 3) 村井博子：幼児期後期の母親の育児困難感と育児に対する自己効力感、ソーシャルサポートの関連（学長裁量経費）

4. 地域貢献

1) 領域全員

- ・2013年から滋賀県立大学小児看護学講座の教員と共に「子どものプレパレーション検討会」を開催している。初心者を対象としたビギナーコースを3回/年開催し、今年度の参加者は24名であった。
- ・地元の小学生の夏季休暇に、稲枝学区学童保育合同イベントを看護学部1～3年の学生とともに、遊びの企画・運営を3日間行った。

2) 流郷千幸

- ・日本家族看護学会選任査読委員

3) 平田美紀

- ・日本小児看護学会第28回学術集会（愛知）学会実行委員
- ・滋賀県看護学校協議会 学生確保委員会理事

5. その他

- 1) 平田美紀：聖泉大学看護学部附属キャリアアップセンター キャリアアップ講座「文献検索の方法」「文献クリティーク」講師、卒業生研修会（卒後2年目研修）「文献クリティーク・研究方法」講師、卒業研究入門講座Ⅱ「文献クリティークの方法を理解することができる」講師
- 2) 鈴木美佐：聖泉大学看護学部附属キャリアアップセンター キャリアアップ講座「統計解析の基礎」「統計解析の演習」「SPSSを学ぼう」、卒業生研修会（卒後2年目研修）「文献クリティーク・研究方法」講師

1-6. 精神看護学領域

1. 構成メンバー

間文彦教授，西垣里志准教授，栗原はるか助教

2. 教育活動

1年：「人間関係論」は（間）、看護師として重要である援助的コミュニケーションのあり方を理解するため、グループワークを中心に対人関係における自分自身のコミュニケーションの傾向を再考察できるような講義を行った。

2年：「精神看護論」は（間）、精神看護学において基礎となる疾患や社会復帰に向けての活動や、精神障害者の処遇や歴史的背景を踏まえた講義を行った。

「精神看護技術論Ⅰ」はオムニバスで開講した（栗原，西垣，間）。精神障害をもつ人のストレスの捉え方など、事例を通して考えた。

3-4年：「精神看護技術論Ⅱ」はオムニバスで開講した（栗原，西垣，間）。看護過程を展開する理論としてオレムのセルフケアを中心に講義をおこなった。また、治療が、病院から地域へと転換されている精神保健の流れから、ストレスモデルを使って患者を理解するための講義を取り入れた。

精神看護学実習は、水口病院・豊郷病院とも2病棟（閉鎖病棟・回復期開放病棟）で実習を行なった。病棟の違い、特に閉鎖病棟と開放病棟のハード面とソフト面の違いの理解を深めるために、実習最後の午前に各病棟から病棟の特性・入院患者の入院形態・病態の説明等を発表し共通認識を深める指導を取り入れた。

カンファレンスは、病棟指導者に参加してもらい毎日30分程度行った。実習初日は、患者とどのように関わればよいかとまどう学生が多かった。しかし、プロセスレコードの活用により自身の傾向を理解することができた。また、患者さんの健康な側面やその人を中心にセルフケア援助を理解することができた。

4年：「卒業研究」、「地域統合実習」においては、それぞれの希望を中心に実習病院や施設を選択し、精神障害者の急性期から退院支援に向けた看護職の役割を主体的に学習することができた。

また、精神障がいをもつピアサポーターを、ゼミに招き、「リカバリーストーリー」を聞かせていただく機会を設けた。それにより、学生の精神看護への理解をより深めることができた。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 間文彦,安孫子尚子,稲垣絹代, (2019) : 沖縄県における精神保健の現状～アルコール依存症・統合失調症患者に焦点を当てて～ 聖泉看護学研究,Vol.8
- 2) 原田小夜, 西垣里志, 山根寛 : 介護支援専門員による高齢精神障害者への支援の現状と課題. 訪問看護と介護, 23(3) : 198-203, 2018.

年次報告書（2018年）領域

- 3) 原田小夜, 西垣里志, 山根寛: 高齢精神障害者の地域包括ケアにおける介護支援専門員の多職種連携の困難感. 精神障害とリハビリテーション, 2019
- 4) 栗原はるか (2019): 精神障害をもつピアサポーターについての研究動向と課題 (文献検討), 聖泉看護学研究 Vol.8.

<学会発表>

- 1) Atuko Matuzaka, Chie Kadowaki, Satoshi Nishigaki, Kazuyoshi Sasaki :
22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019
- 2) 原田小夜, 西垣里志, 山根寛 (2018): 介護支援専門員が支援している高齢精神障害者の支援事例の特徴と精神科専門職連携, 日本精神障がい者リハビリテーション学会, 2018

<助成金による研究活動>

- 1) 聖泉大学 知の拠点 COC+プロジェクト 聖泉版・近江楽座
間文彦, 山口隆介: 地域活性化推進プロジェクト
- 2) 栗原はるか, 西垣里志, 間文彦: 『リカバリーストーリーを聞くことによる, 精神科看護師のリカバリーに対する認識の変化』: 平成30年度聖泉大学学長裁量費

4. 地域貢献活動

各教員

- 1) 間文彦: 日本精神看護学会滋賀県支部主催, 看護研究発表会の講評
- 2) 間文彦: 日本看護協会滋賀県支部主催 「看護研究をやってみよう」 講師
- 3) 間文彦: 近江地域学会 理事
- 4) 間文彦: 彦根市公共上下水道事業審議会委員
- 5) 間文彦: 彦根市地域支援会議委員 理事
- 6) 間文彦: 聖泉大学地域連携交流センター主催, 健康づくりリーダー養成講座初級, 体力測定と健康相談講師
- 7) 西垣里志: 草津精神障害者の会「草津サロン」で、「気持ちの伝え方・受け取り方—相互理解のためのコミュニケーション—」講演
- 8) 西垣里志: 社会福祉法人「きぼう」理事

1-7. 地域看護学領域

1. 構成メンバー

安孫子尚子准教授，後藤則子特任助教，大塩佳名子助手

2. 教育活動

2年：前期には「地域看護論」、後期には「地域看護技術論Ⅰ」「地域看護技術論Ⅲ」の講義、演習を行った。「地域看護技術論Ⅰ」では事例を用いた新生児の家庭訪問援助計画作成と、母子、成人、高齢者を対象とした健康教育の企画と実施、「地域看護技術論Ⅲ」では、滋賀県内の模擬市町のデータによる地域診断の演習を行った。健康教育と地域診断は授業最終日に成果発表を行った。

3年：前期、「地域看護技術論Ⅱ」で対象別保健指導について教授した。

4年：「地域看護学実習」は、5月～7月に、1グループ6名、合計5グループが滋賀県内の保健所、市町保健センター、地域包括支援センターで実習を行った。家庭訪問では保健師同伴での見学、学生のみでの継続訪問を実施し、事例を発表する家庭訪問報告会を行った。報告会は、学生に個別事例から地域課題へのつながりを意識させた。実習地の最終日には、実習指導者の前で5週間取り組んだ地域診断を発表した。実習最終日には学内報告会を開催し、他の実習グループと学びを共有した。学生は、学内報告会での発表によって、実習地ごとに地域課題が異なり、重点となる保健師活動に違いがあることを理解できた。また、実習での健康教育や地域診断などは、グループメンバーで取り組むために、自分の役割を果たしながら、建設的に話し合い、学びの促進に貢献するグループダイナミクスを学ぶ機会となった。

「地域統合実習」は、4名の学生が甲良町地域包括支援センターで実施した。学生が今までの学びを活かし、母子保健や成人保健、高齢者保健に関する事業に積極的に参加し、住民と関わりながら、実習に取り組んだ。

卒業研究では、4名が文献研究に取り組んだ。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 安孫子尚子，多胡陽介，間文彦（2019）：大学と自治体の協働によるオリジナル体操開発への取り組み（第1報），聖泉看護学研究，8，67-71.
- 2) 間文彦，安孫子尚子（2019）：沖縄県における精神保健福祉の現状～アルコール依存症・統合失調症患者に焦点を当てて～，聖泉看護学研究，8，73-76.
- 3) 安孫子尚子，多胡陽介監修（2019）：平成30年度あいしょう版『スポーツ×健康づくり×地域づくり』推進事業，愛荘町オリジナル体操びんてまり体操DVD

<学会発表>

- 1) Kazuko Mitoku, Ukiko Akai, Naoko Masaki, Ukiko Ogata, Shoko Abiko, Eriko Arakane: Diseases causing frailty, time until death and place of death among frail elderly a population-based cohort study,

年次報告書（2018年）領域

第5回日中韓看護学会，東京

2) 安孫子尚子，間文彦：大学と自治体との協働による体操開発の現状と課題，日本看護研究学会第32回近畿・北陸地方会学術集会，福井

3) 大塩佳名子：夫婦関係満足度が乳児の泣きへの感情に与える影響，日本看護研究学会第32回近畿・北陸地方会学術集会，福井

<助成金による研究活動>

1) 安孫子尚子：すこやかな最終段階を迎えるための意思決定の促進とソーシャルキャピタルの醸成，科学研究費助成事業 基盤研究（C）（2017-2019）継続中

2) 大塩佳名子：夫婦関係満足度が乳児の泣きへの感情に与える影響，聖泉大学看護学部研究助成費（2018）

4. 地域貢献活動

1) 安孫子尚子

【彦根市】高齢者保健福祉協議会会長，地域密着型サービス運営委員，福祉子ども未来部指定管理者候補者選定委員，高齢福祉施設適正管理計画検討委員

【甲良町】認知症ケアパス作成検討委員会スーパーバイザー

【愛荘町】愛荘町地方創生推進交付金：あいしょう版「スポーツ×健康づくり×地域づくり」推進事業の受託「愛荘町オリジナル体操」の開発

・聖泉大学地域連携交流センター健康づくりリーダー養成講座中級編 講師，「やってみよう！聖泉オリジナル体操」，2018年7月14日，聖泉大学

・彦根市老人クラブ連合会「住み慣れた地域で取り組む介護予防連続講座」講師述4回

・ピンクリボンひこね実行委員会監査，会議および普及啓発活動への参加

2) 後藤則子

・滋賀県市町保健師協議会彦根支部研修会ファシリテーター，「産後うつ傾向のある産婦さんへの関わり方」，2019年2月12日，くすのきセンター彦根市

3) 大塩佳名子

・滋賀県市町保健師協議会彦根支部研修会講師，「産後うつ傾向のある産婦さんへの関わり方」，2019年2月12日，くすのきセンター

・ピンクリボンひこね実行委員会会議および啓発活動への参加

1-8. 在宅看護学領域

1. 構成メンバー

磯邊厚子准教授，桶河華代講師，川嶋元子講師

2. 教育活動

2年：「在宅看護論」毎授業終了後は、5分間テストをmanabaで行い、授業の振り返りと学習確認を行い、復習の時間をとっている。manabaを利用して、国家試験問題を解くこともしており、自己の課題への気づきと、知識の蓄積、拡大を促している。レポート課題については、文章の書き方、誤字脱字を指摘し、早期から「書く」を習慣づけるよう教授している。

3-4年：在宅看護過程の内容の充実と医療的技術（吸引、胃ろう）は現場の実態に合わせたリアルな方法で行うと共に、訪問看護ステーションの管理者にマナー演習に入ってもらい、学生の認識を高めている。

4年：「地域統合実習」では看護小規模多機能施設を新規開拓し、学生が地域で療養者を支える仕組みを理解し、精神障害者や認知症をもつ事例を訪問できるようした。毎年卒業研究論文集の完成版（各10頁）を作成しており、学生の卒業後の研究意欲につなげている。

3. 研究活動

<著書>

- 1) 磯邊厚子：世界の社会福祉年鑑 2018/2019「スリランカの世界福祉」，旬報社 203-231頁，12月3日2018
- 2) 桶河華代：「実践に生かす看護理論 19」（城ヶ端初子 編著）；終章 実践に生かす中範囲理論：危機理論 384-393頁 11月2018
- 3) 桶河華代：「ナイチンゲールの看護思想を実践に活かそう！ーナイチンゲール看護研究会・滋賀」の学びと歩みー（城ヶ端初子 編著）；第1部3章，第2部6章(1)(2)，11章(3)，17章(1)(2)，18章，19章(1)(2)，第3部2章(2)，3章(3)，第4部3章，3月2019

<論文>

- 1) 浅居美樹，磯邊厚子，太田節子：一般病棟に入院する認知症高齢者の転倒予防に関する看護師の認識，聖泉看護学研究 第8号，13-22頁，3月27日2019
- 2) 桶河華代，高島留美，松井克奈子，奥田のり美，千田昌子，城ヶ端初子：ナイチンゲールの看護思想を実践に活かすための研究会の取り組みと課題ー「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」13回～19回例会を中心にー，聖泉看護学研究 Vol.8 59-66頁 3月2019

<学会発表>

- 1) 磯邊厚子，桶河華代，川嶋元子：ロールプレイングを用いて家族看護を学ぶ演習ー家族介護者の理解を深めるために，第32回日本看護研究学会 近畿北陸地方会学術集会，福井，集録集43頁 3月9日2019
- 2) 桶河華代，和田幸子，齋藤京子：他分野の専門・認定看護師で構成する事例検討会の学び，第8回日本在宅看護学学術集会，静岡，抄録集108頁 12月2018

年次報告書（2018年）領域

- 3) 桶河華代, 高島留美, 松井克奈子, 奥田のり美, 千田昌子: ナイチンゲールの看護思想を実践に活かすための研究会の取り組みと課題-「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の参加者の学びから-, 第32回近畿・北陸地方会学術集会, 福井, 集録集41頁 3月2019
- 4) 川嶋元子: 中小規模病院の外来における在宅療養支援の実態調査, 第32回近畿・北陸地方会学術集会, 福井, 集録集39頁 3月2019
- 5) 磯邊厚子, 戸田美幸: 第2回日本国際看護学会 近畿北陸東海地区分科会 「グローバルコミュニティでどこにでも見つけられる研究テーマー国際まちの保健室での実践的研究を通して」報告書 <http://日本国際看護学会>, 滋賀(聖泉大学) 於 3月23日 2019

<助成金による研究活動>

- 1) 公益財団法人平和中島財団 国際学術共同研究助成 アジア地域重点学術研究助成
磯邊厚子, 戸田美幸, 松永早苗, Nihal weerasoorriya, Samath dharmaratne, Offiyar thevar, Dammika premarathna 他7名「スリランカの農園地域の女性のwell-beingを目指す潜在能力アプローチの実践・福祉の機能リストの構築」2018 4月-2019 3月
- 2) 文部科学省研究助成
川嶋元子: 「外来看護における在宅療養支援のシステム構築のための研究」(課題番号 16K20843) 2016-2018
- 3) 聖泉大学 知の拠点 COC+プロジェクト 近江楽座・聖泉版
磯邊厚子, 桶河華代, 川嶋元子, 太田節子, 今井恵, 西垣里志, 森本恵り子「高齢者と看護学生の地域内交流」地域活性化プロジェクト 2018 4月-2019 3月
- 4) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 研究活動支援
齋藤京子, 和田幸子, 桶河華代, 森野智史: 「他分野の専門・認定看護師で構成された事例検討会の効果」2018 4月-2019 3月

4. 地域貢献活動

- 1) 磯邊厚子, 桶河華代, 川嶋元子, 太田節子, 今井恵, 西垣里志, 森本恵り子: 「つながり」, 聖泉大学地域連携交流センター 近江楽座聖泉版 地域活性化への貢献「高齢者と看護学生の地域内交流」, 10-17頁 11月 2018
- 2) 磯邊厚子, 桶河華代, 川嶋元子: 聖泉大学地域連携交流センター主催 公開講座「介護する人, される人を超えて お互い様の共生社会を目指して」4名のシンポジストを招聘 本学455号室 9月30日 2018
- 3) 磯邊厚子, 戸田美幸: 聖泉大学地域連携交流センター主催 公開講座「在日外国人への臨床看護師の対応あれこれーグローバルコミュニケーションのすすめ」聖泉大学於 3月23日 2019

2. 委員会活動報告

2-1. 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安孫子尚子
- 2) 委員：木村知子，中川ひろみ，森本喜代美，今井恵，鈴木美佐，川嶋元子，栗原はるか，馬場好恵

2. 所掌事項

- 1) 試験に関する業務
- 2) 学年暦の作成
- 3) 履修登録、履修に関する学生への説明
- 4) 講義依頼・非常勤講師への挨拶
- 5) 時間割作成
- 6) 履修要項作成
- 7) 卒業研究に関すること

3. 委員会活動

回数	年 月 日	主な議題、内容等（毎回：各ワーキング報告）
1	2018年4月10日（火）	1. 委員会体制について 各ワーキング役割確認 2. 新年度各学年ガイダンスの振り返り 3. 外部講師の対応 4. フレッシュゼミ，キャリア教育Ⅱ
2	2018年5月9日（水）	1. 前期試験日程案検討 2. 6期生卒業研究に関する検討（到達目標・ゼミ人数）
3	2018年6月6日（水）	1. キャリア教育Ⅰ～Ⅳの構想 2. 前期試験時間割と終了時のオリエンテーション
4	2018年7月11日（水）	1. フレッシュゼミ評価，キャリア教育Ⅰ後期 2. 前期試験時間割と試験監督担当
5	2018年9月3日（月）	1. キャリア教育Ⅱの評価 2. 前期試験の課題，後期時間割最終版
6	2018年10月10日（水）	1. 後期試験時間割 2. 5期生卒業研究進捗状況と6期生の入門講座Ⅰ
7	2018年11月14日（水）	1. 2019年度履修要項作成 2. 5期生卒業研究抄録作成
8	2018年12月13日（水）	1. 来年度の学年暦，予算 2. キャリア教育Ⅱ評価と2019年度キャリア教育Ⅲ
9	2018年1月10日（水）	1. 2019年度のキャリア教育 2. 全学教務委員会と学部教務委員会との調整
10	2019年2月5日（水）	1. シラバスチェック
11	2019年2月13日（水）	1. 2019年度の時間割（人間学部との調整） 2. 卒業研究抄録集
12	2019年3月13日（水）	1. 2019年度のフレッシュゼミの担当（案） 2. 6期生卒業研究入門講座Ⅱ
13	2019年3月25日（月）	1. 各ワーキングより 1年間の総括 2. 新旧教務委員引き継ぎ

*ワーキンググループ

A：履修要項、履修登録、成績/単位認定、キャリア教育に関すること

B：時間割、試験日程、外部講師対応に関すること

C：卒業研究に関すること

*委員会は、各ワーキングが担当する内容報告とその検討によって委員会の総意を諮った。
また各学年の留年生、成績低迷者等気になる学生については、教務課、学生委員会とで情報を共有するよう努めた。

4. 委員会総括

全体として、委員会は教務課と連携し活動できた。学生委員会との情報共有と連携によって、学生への学習環境を整えることにつながったと考える。

7期生から開始した、キャリア教育は、フレッシュゼミ、キャリア教育Ⅰ、キャリア教育Ⅱまでを実施し、学びの積み上げとしてキャリア教育Ⅲの検討を行うことができた。

以下、総括をワーキング毎に行った。

1) ワーキング A

- ・履修要項の見直しは、全学教務委員会での両学部の履修規定確認、大学で検討する教育理念、カリキュラムなどの調整により、内容確定、印刷工程に時間を要した。
- ・シラバスチェックは2月上旬に実施、補助金獲得の追加項目によって混乱がみられた。
- ・定期試験ガイダンスは、昨年度より1年生前期のみで問題なかった。
- ・2年のキャリア教育Ⅱの実施では、講師決定に時間を要したが、学びは深められた。

2) ワーキング B

- ・外部講師の紹介は、教務課で対応（初年度講師は委員長）し、特に問題はなかった。
- ・定期試験の実施予定を例年よりも2週間早い時期に担当教員に尋ねることとし、試験時間割を早めに提案した。
- ・試験監督者の均等割についての検討は、さらに必要である。

3) ワーキング C

- ・6期生の卒業研究については、到達目的が論文作成から研究計画作成へと変更した。研究計画作成に伴い、各領域で担当するゼミナール人数配分の考えも変更となった。研究計画書の完成については、各領域の責任において確認することとなった。卒業研究抄録は作成しない。

4) その他

- ・7期生よりキャリア教育を導入し、今年度は、キャリア教育Ⅱを開講した。
- ・来年度より、カリキュラム再検討が行われる。教務課、カリキュラム委員会、他委員会と連携しながら、教務委員会の役割を果たす必要がある。

2-2. 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：西垣里志
- 2) 委員：桶河華代、平田美紀、国松秀美、鈴木美佐

2. 所掌事項

- 1) 学生委員会開催
- 2) 学年担任と学生指導・支援及びチューターとの連携
- 3) 長期休暇前の生活指導
- 4) 学生課との連携協力（①学生表彰関係②就職支援関係③学友会関係④新入生オリエンテーション関係⑤奨学金関係⑥クラブ関係⑦学生の生活・学習環境関係⑧学生便覧関係）
- 5) 万聖祭への参加協力関係
- 6) 卒業パーティー協力
- 7) 全学学生委員会との連携協力
- 8) 教育後援会への出席

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等
1	2018年4月10日（火）	1. 就職関係の年間予定の確認 2. オリエンテーション・病院見学の振り返り 3. 学生委員会業務確認及び学年担任報告
2	2018年5月15日（火）	1. 奨学金・学友関係・春季行事について 2. 万聖祭実行委員と学長奨励表彰の選考について 3. 各学年担任報告
3	2018年6月12日（火）	1. 学友会の参加行事・SNS利用について 2. 就職ガイドブック見直し検討（12月まで継続） 3. 学籍移動書類の検討 4. 各学年担任報告
4	2018年7月10日（火）	1. 万聖祭進捗状況休み前学生連絡、大雨の安全確保 2. 奨学金貸与者選定について 3. 各学年担任報告
5	2018年9月10日（月）	1. 学友会活動・万聖祭の進捗状況 2. 各学年担任より学生の状況報告
6	2018年10月2日（火）	1. 万聖祭進捗状況、人材確保について 2. 次年度研修会講師について 3. 各学年担任報告
7	2018年11月5日（月）	1. 万聖祭進捗状況について 2. 次年度予算について 3. 各学年担任報告
8	2018年12月11日（火）	1. 奨学金について 2. 万聖祭の振り返りと卒業パーティー準備について 3. 各学年担任報告
9	2019年1月9日（水）	1. はたさばの日程及び概要、マイナビ打ち合わせ 2. 各学年担任報告
10	2019年2月12日（火）	1. 学長表彰推薦についてと次年度予算 2. はたさば進捗状況 3. 各学年担任報告
11	2019年3月12日（火）	1. はたさば進捗状況について 2. 2019年度オリエンテーションについて 3. 卒業パーティーについての報告確認 4. 各学年担任報告及び1年間の総括

4. 委員会総括

多義にわたる学生委員会の活動の中で、柱となるものについて述べる。

- 1) 学友会支援について振り返ると、定期的に学友会会議をもちその時々に取り組むべき課題に対して学友会は話し合いをし、課題を解決していった一年であった。学生課が丁寧にフォローし、教員も指導に当たりながら年間の学友行事をこなした一年であった。新入生歓迎会は、例年どおりバーベキューをおこなった。多くの参加者を得て盛況であったが、実行するにあたってのサポートはかなり必要であった。万聖祭については、毎年様々な課題があるが本年は早くから学生が取りかかり段取りよく行えた。こうした取り組み方法を次年度にどう伝えていくかが今後の課題と考える。また、学友会の構成員が看護学部へ偏ってしまっていることは問題ある。
- 2) 学生課との連携について、学生課の職員の中での分担があり、特定の職員との連携であったが、密に連携できたと思っている。ただ、係に偏りすぎて、学生課職員の一部しかわからないこともあり、こうした偏りの是正を望む。
- 3) 卒業パーティーは、学生課と教員、卒業パーティー委員との協力関係で大きな問題もなく終えることができた。新しい会場であったが、トラブルもなく終えられた。
- 4) 就職ガイドブックの作成については、何度も修正して学生にとってより良いものとなるよう検討を重ねることができた。次年度は教務委員会との連携調整が必要となるため早めに取りかかる必要がある。
- 5) はたさぼは、例年通りのスケジュールで行った。事前の綿密な打ち合わせにより、スムーズに終えることができた。マイナビの活用をもう少し考えて、学生が早めの就職活動意識がもてるようにしていきたい。はたさぼも次年度はキャリア教育の一つに入る予定であるため、早めに内容検討を教務委員会と行っていく必要がある。
- 6) 各担任との連携について、毎月の委員会で学生の様子や問題が報告され、共通認識ができていた。学生の面接も含め担任の業務としては多忙であったが、学生一人一人に注意を払いながら、学習につながるよう支援した。しかし、チューターとの連携が課題で、チューター面接がどの程度行われているのかが不透明であった。
- 7) 教育後援会との連携については、定例の4回の会議に学部代表として委員長が出席した。本年度は病院見学のための費用として、バス代を提供していただいた。今後も学生支援のために学部として援助をお願いした。

2-3. 国家試験対策委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委員：中島真由美，川嶋元子，今井恵，中村美由紀，大塩佳名子

2. 所掌事項

- 1) 国家試験対策に関すること
- 2) 看護師国家試験に関すること
- 3) 保健師国家試験に関すること

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等
1	2018年4月14日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・第107回看護師国家試験傾向分析会について ・保護者説明会の振り返り ・学内強化対策について ・低学年国試対策について
2	2018年5月2日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・強化対策の進め方について ・学生の国家試験対策委員の役割について ・低学年国試対策・予算について
3	2018年5月28日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・5月、8月強化対策について ・保健師国試対策について ・既卒生への連絡について ・3年生の領域実習事前学習の課題について
4	2018年6月18日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・強化対策について ・東京アカデミー 低学力者向け講座について ・出願ガイダンスの日程について
5	2018年7月9日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・学内強化対策、保健師国家試験対策について ・学内模試の試験監督について ・低学夏期休暇課題
6	2018年8月22日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回東京アカデミー（8/20）の結果について ・強化対象者について・低学年対策について
7	2018年9月21日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アカデミー対策講座について ・強化対策者、保健師対策について ・国試ガイダンスについて
8	2018年10月15日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アカデミー必修模試（10/2）の結果について ・国家試験自己採点日と学生への連絡について ・低学年（3年生）対策について ・次年度の国家試験対策業者について ・受験票配布時の激励、国家試験合格祈願について ・願書作成の予定および留意点
9	2018年11月12日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回東京アカデミー（11/6）の結果について ・願書提出について（11/12）

10	2018年12月13日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回東京アカデミー（12/11）の結果について ・1月以降の強化対策について ・受験票渡し（1/31）の進め方 ・自己採点日（2/19）の進め方 ・今年度の予算執行状況と2019年度予算案について ・1/10（木）多賀大社祈願について
11	2019年1月7日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・1月以降の強化対策について ・強化対策以外の学生対応について ・保健師国家試験対策について ・低学年の春期休暇課題について ・2019年度国家試験対策の年間予定（案）について
12	2019年2月4日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アカデミーとの打合せ（1/31）を経て ・次年度のスケジュール作成 ・自己採点（2/19）の進め方と対応について
13	2019年3月4日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・合格発表（3/22）の対応について
14	2019年3月22日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・合格発表の確認と対応 ・次年度の対策、役割について

4. 委員会総括

1) 国家試験サポートについて

今年度より東京アカデミーへ変更し、国試対策を行った。低学力者向け講座は強化対策対象者へ案内し自己負担での受講とした。その他、東京アカデミーの夏季・冬季講習の案内を行い学内でまとめて申し込みをした。保健師対策は地域看護領域が主体となり講座を行った。既卒者についてはゼミ担当教員を窓口とし、進捗状況の把握を行ったが、返答がない者も数名いた。

2) 模擬試験について

看護師国家試験は、東京アカデミー（必修、第1～3回）、学研（第3回）を行った。保健師国家試験対策については、ほけもし（3回）を行った。

3) 強化対策について

3年前期までの成績と4月模試（第107回）結果を参考に、強化対策対象者を選定した。早期対策として5、6月から小グループを作り、確認小テストを繰り返し行った。グループ学習には教員が学習指導し、学習習慣を定着させた。その他、夏まではゼミ単位で対策を依頼した。秋からは東京アカデミーの対策講座が始まり、出席状況や小テストについて講師と情報交換し対応した。12月の模試結果から、1月以降の強化対策対象者を選定し過去の模試を準備して問題に取り組んだ。また、対象者以外の学生へ問題集の提供や学習環境の調整を行った。

大学に来て学習するよう伝え、ほとんどの学生が直前まで大学で問題に取り組んだ。

4) 低学年対策について

低学年への国試対策としては、夏季休暇課題と春期休暇課題に取り組むよう伝えた。

2-4. 実習調整委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：磯邊厚子（2018年4月1日～2019年3月31日）
- 2) 委員：流郷千幸，西垣里志，國松秀美，森本喜代美，村井博子，漆野裕子，大塩佳名子，千田美紀子（7月迄）

2. 所掌事項

- 1) 臨地実習に関するローテーション表作成
- 2) 臨地実習共通要項及び地域統合実習要項作成、各領域実習要項のまとめ
- 3) 臨地実習の教育活動に関する運営（実習施設との調整、インシデント報告分析、実習先大学バス運行の調整等）
- 4) 臨地実習指導者連絡会の企画運営

3. 委員会活動

回	年 月 日	議題、内容等
1	2018年4月9日（月）	年間活動計画，各ワーキングの引き継ぎ/準備，定例委員会の決定と議事録担当，予算の作成，実習指導者連絡会の準備，実習コーディネーターの役割，感染症対策について
2	2018年5月14日（月）	年間活動計画（各A,B,Cワーキングの担当），実習指導者連絡会の準備運営，2018年度実習ローテーション表の確認，地域統合実習施設依頼/日時の確認，インシデント報告．
3	2018年6月11日（月）	実習指導者連絡会の最終運営確認，準備役割分担，2019年度実習ローテーション表作成．感染症検査・ワクチン接種の確認，地域統合実習の報告書の書き方について
4	2018年7月12日（木）	実習指導者連絡会の振り返り（第一部及び第二部について），2018年度のローテーション表に学生氏名の記載確認，インシデントに関する学生周知の申し合わせ：実習オリエンテーション時にこれまでのインシデント事例を学生に伝える． （*基礎領域の千田委員が退職された）
5	2018年9月10日（月）	9月の実習オリエンテーションの準備確認，諸注意の時間にインシデント報告を行う（各領域の説明は25分間）． 2018年度の実習ローテーション表の確認，各施設へ持参する実習コーディネーター担当委員を決める．2019年度のローテーション表作成の締め切り日について，実習送迎バスについての手続きなど．

6	2018年10月5日（金）	地域統合実習報告について報告書の書き方，臨地実習共通要項作成のスケジュール，各領域の実習要項の作成スケジュール，インシデント報告と後期の学科会議での討議提案．予算の配分及び執行計画．
7	2018年12月5日（月）	2019年度の実習ローテーション表の作成，本年度の予算の執行及び2019年度の予算申請について，臨地実習共通要項の見直し（実習施設一覧含む）．
8	2018年1月7日（月）	2019年共通要項の見直し（全体の見直し一文章の整合性や言葉の使い方，誤字脱字の修正など），2019年の各領域実習要項の提出，印刷部数の確認など．2020年度の実習ローテーション表について，インシデント報告の内容討議，次年度実習指導者連絡会の第2部の講師の推薦の呼びかけ．
9	2019年2月13日（月）	2019年共通要項の修正箇所の最終確認，2020年度のローテーション表（グループ数）について，地域看護領域から2020年はゴールデンウィークがかかり，統合実習を8月延期希望，地域統合実習要項の目的・目標が分かりにくい一教授会に提案する，2019年指導者会議第2部の講師推薦の提案．予算残が123,000のため，各領域に手指消毒剤を配布する．
10	2019年3月11日（月）	各ワーキングの振り返り．実習指導者連絡会までに施設へ送付する実習到達度と課題の様式について一部変更する．指導者会議の出席者及びプログラムの流れは昨年と同様にする．各ワーキングの年度末報告は，委員会のホルダーに保管する．6/12の指導者連絡会の講師（村上氏）を教授会に提案．

4. 委員会総括

各ワーキングにより運営はスムーズに進んだが、実習ローテーション表作成の課題は続いており（グループ数等）、検討を重ねる。実習施設確保の課題も同様であるが、各領域でまとめている。保健師志望の学生を全グループに配置することで、学生同士の刺激、研鑽に結び付ける。基礎実習Ⅱは、時期を2グループに分け、教員の指導が充実するようになった。実習共通要項の改善は昨年から進んでいるが、精読するとさらに改善すべきことがあり、修正を繰り返した。施設、大学、学生が納得して実習に臨めるよう工夫していく。感染症に関する情報、健康管理情報も共通要項に整理され、学生（施設含）が、健康の自己管理をしやすくなった。実習コーディネートについては実習先の負担軽減、依頼もスムーズのため実施していく。実習方法や実習時間など各領域によって違うが、学生が安心して実習に臨み、有意義かつ効果的な臨地実習ができるよう、委員会で検討、貢献していく。

2-5. FD委員会

1. 構成メンバー（敬称略）

- 1) 委員長：坂田直美
- 2) 委員：磯辺厚子, 平田美紀, 森本喜代美, 國松秀美, 井之口文月, 漆野裕子

2. 所掌事項

- 1) 平成30年度看護学部FD研修会（全学FD研修会に協賛）

3. 委員会活動およびFD研修会

回	年 月 日	議題、内容等
1	2018年4月18日（水）	1. 副委員長の選出 2. 委員会規程について 3. 今年度のFD活動について
2	2018年5月16日（水）	1. 平成30年度全学FD委員会の年間計画について 2. 「平成30年度看護系大学FD企画者研修」について 3. 看護学部FD委員会年間計画について
3	2018年8月19日（火）	1. 全学FD研修会の進捗状況報告 2. 「平成30年度看護系大学FD企画者研修」について 3. 平成30年度授業評価について 4. 公開授業90分（学内教員間）について 5. 今年度のFD委員会の活動方針について
4	2018年7月17日（火）	1. 全学FD委員会報告 2. 平成30年度の授業評価の報告方法について 3. 公開授業90分（学内教員間）について 4. 今年度のFD研修会の実施計画について
5	2018年9月5日（水）	1. 平成30年度第1回看護学部FD研修会について 2. 公開授業（学内教員間）について
6	2018年10月10日（水）	1. 全学FD研修会について 2. 第1回看護学部FD研修会の報告 3. 今後の看護学部FD研修会の進め方、役割分担について 4. 授業評価について 5. 教員相互の授業参観について
7	2018年11月9日（金）	1. 全学FD委員会の報告 2. 第2回看護学部FD研修会の報告 3. 第3回看護学部FD研修会について
8	2018年12月21日（金）	1. 全学FD委員会報告 2. 第3回看護学部FD研修会の報告 3. 第4回看護学部FD研修会について 4. 今後のFD研修について
9	2019年1月30日（水）	1. 全学FD・SD研修会について 2. 看護学部FD研修会について 3. 大学コンソーシアム第24回FDフォーラム参加について

4. 委員会総括

1) 看護学部FD研修会について

看護学部FD委員会では、AP・DP・CPについての研修会を企画、運営したことが新しい取り組みである。

第1回研修会では、小山学長より「大学及び看護学部の理念とカリキュラム構築の基本」について講義を受けその後、職位別に「育てたい学生像」についてグループワークした。第2回研修会では、木村学部長より「本学のディプロマポリシー」について講義を受け、第3回研修会にてグループワークした。第4回研修会では、小山学長からコア・カリキュラムについての学習会を行った。第5回研修会では、流郷研究科長から「本学のカリキュラムポリシーについて」講義を受け、第5回研修会にてグループワークした。

講義とグループワークにて、現在のAP・DP・CPに至るまでの経緯を理解することや、職位別に意見交換することで様々な視点から捉えることができた。カリキュラム改正に向けて共通理解ができ今後につながる研修会であった。

2) 教員相互の授業参観について

大学教育において、学生への教授方法は誰もが悩む課題である。そのため、授業参観を行うことで教授方法を見直し参考にできるよう企画した。

今年度は、後期に小児看護学1科目の実施であったため、実習との重なりで参加者が少なかったが、参加者からは好評であったので、次年度は前期に実施できるよう準備したい。

2-6. 研究促進委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：太田節子
- 2) 委員：鈴木美佐, 井之口文月, 山根加奈子, 馬場好恵

2. 所掌事項

- 1) 2018年度「学長裁量経費」（看護学部）による研究助成の応募と選考準備
- 2) 2018年度「学長裁量経費」研究成果の発表会（看護フォーラム）の開催

3. 委員会活動および看護フォーラム

回数	年 月 日	議題と看護フォーラム
1	2018年4月27日（金）	<p>1. 委員の挨拶</p> <p>2. 委員会規程案作成（FD委員会と分離）</p> <p>3. 年間活動の確認</p> <p>・予算担当を鈴木先生にお願いすることが決定した。</p> <p>・2017年度研究助成の成果報告書（4月中）：資料室 成果報告書の管理は、今後検討が必要との意見あり</p> <p>・2018年度研究助成の応募者4名を確認し（1名書類不備）、5月8日教授懇談会で審査員6名に各申請書と審査用紙を袋詰めにして、審査を依頼した。</p> <p>・科研費 研究活動スタート支援</p> <p>5月9日締切の研究活動スタートアップに、2名が応募された（学部長より）。 8月下旬発表。</p>
2	2018年5月18日（金）	<p>1. 委員会規程案を教授会（5月16日）で承認された。</p> <p>2. 予算は、ロール紙を購入する（使用頻度が高い）。</p> <p>3. 助成金の採択（平成30年度看護学部：60万円）</p> <p>1) 第1回申請者4名の内、2名は採択された。他の2名は再検討を依頼し、別に第2回応募者を再募集することとなった（5月16日～31日）。</p> <p>2) この後、複数の応募があり、同様の審査をし6月教授会で計6名の教員の助成を決定した。</p> <p>審査結果は、審査過程を各応募者に文書で委員長が伝達した（マル秘USB）。</p> <p>4. 研究助成の採択結果は、学長に文書で報告した。</p>
3	2018年12月下旬	<p>次年度予算案の検討（書面による委員会を実施）</p> <p>1. 予算担当の鈴木先生より、今年度予算決算状況の報告と、次年度予算案の提案があり、メールによる委員会委員の意見の聴取がなされた（領域実習で委員会出席が困難）。</p> <p>その結果、次年度予算案が承認され、今年度から「研究促進委員会」予算として、独立して申請することとなった。</p>

年次報告書（2018年）委員会

4	2019年2月15日（金）	<p>1. 鈴木先生から2019年度予算案について説明と報告があった。</p> <p>2. 3月22日の「看護フォーラム」準備について 発表者6名へ抄録テンプレートを配信 当日スケジュールと役割分担 必要機器等準備 テラシの準備 教授会でのPR等</p>
5	2019年3月22日（金）	<p>2018年度看護フォーラム ポスター形式(発表：各15分) 10：00～12：00 司会・座長 鈴木美佐先生・井之口文月先生</p> <p>挨拶 小山敦代学長</p> <p>発表者 村井博子先生 栗原はるか先生 山根加奈子先生</p> <p>休憩 馬場好恵先生 大塩佳名子先生 森本喜代美先生</p> <p>終了挨拶 木村知子学部長</p>
6	2019年3月25日（月）	<p>1. 看護フォーラムの振り返り 馬場先生からアンケートの報告があった。 出席者 21名（別科助産専攻教員 2名） フォーラムについて 「発表は良かった」 100% 感想：発表の場が、つい立て1か所に聴衆が集合していた等</p>

2-7. 学術誌編集委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：太田節子
- 2) 委員：安孫子尚子, 鈴木美佐, 今井恵, 栗原はるか, 森本恵り子
田中百可(教務課)

2. 所掌事項

学術雑誌「聖泉看護学研究 第8号」の編集と発行

3. 委員会活動（別表参照）

*ワーキンググループ

A：投稿者の投稿から査読、掲載までの進捗状況に関すること

B：学術誌発刊（印刷業者との交渉、別冊作成など）に関すること

予算管理は委員の1名が担当し、投稿規定の見直し、執筆要領の見直しは委員全員で行う。

事務：投稿者・査読者宛の必要文書の作成

*会議は、論文の投稿や査読の時期にあわせて、開催した。

4. 委員会総括

2018年度は、論文申請が14論文あったが、最終の論文掲載は原著1本、研究ノート1本、資料6本、その他2本の合計10論文であった。

昨年度に引き続き、投稿論文毎に1名の委員が担当し、投稿から査読、掲載までの状況を把握した。

委員会では、投稿規定、執筆要項を見直した。投稿規定では、投稿者資格や論文の申請をホームページで行えるように改善した。執筆要項では、新たに利益相反の記載について追記した。

今後の課題としては、多くの論文が投稿され、より洗練された論文が掲載されるように、聖泉看護学研究のレベルアップと学術誌編集委員会の質の高い活動を図ることである。

平成30年度 学術誌編集委員会 年間活動

	投稿者の活動	査読・校正の流れ	学術編集委員会の活動	
			委員会開催と内容	準備・作業
4月			18日敬愛会終了後～ 第1回学術誌編集委員会 ・委員会年間計画 ・学術誌作成スケジュールの確認 ・テーマ締め切日の決定	委員会規定、投稿規定、執筆要領 25日学科会議(HP最新執筆要領の再報告、テーマ締め切り日アナウンス)
5月				
6月				
7月				25日 学科会議とメール配信にて論文投稿のアナウンス(委員長)
8月	学術論文申請書の提出 7日正午 締め切り		8日 13:00～ 第2回学術誌編集委員会 投稿数・テーマ・論文の種類を把握する (論文の担当者を決める)	8日12時 学術論文申請書の件数確認(安孫子・森本・今井) 8日執筆者・テーマリストの作成(2018・8・8) 外部・内部査読者の検討(委員長・副委員長)
9月	投稿者は投稿原稿を執筆し、共著者、指導者などに内容の指導を受けた後に、学術誌編集委員会のメールボックスへ提出 25日正午 締め切り 25日 執筆者へ論文返却		25日 13:00～ 第3回学術誌編集委員会 ・学術誌編集委員は、体裁と内容の確認【イニシャルチェック】 ・提出論文の確認 ・外部査読に出せるか判断 ・訂正箇所を確認	学術編集委員にイニシャルチェック用論文の配布 ・執筆者への修正箇所の文書作成 ・執筆者へ論文返却 ・外部・内部査読者の決定
10月	論文の再提出(イニシャルチェック後) 2日正午 締め切り	3日 外部査読に発送 31日 外部査読者から査読返却	3日 14:00～ 学術誌編集委員による確認 ・外部査読に出せるか判断 ・外部査読発送準備(書類の確認)	学術誌編集委員へ(再提出論文)配布 ・論文受理通知書を投稿者に配布(田中) ・内部・外部査読者 依頼書(お願い文書、査読報告書、返信物チェック) ・外部査読用 ゆうパックの購入(田中)
11月	3日 執筆者へ返却 30日 正午 修正論文提出締め切り		1日 9:00～ 学術編集委員による確認 ・査読後返信状況確認 ・返却論文の確認 ・評価判定の確認 ・執筆者に返却の準備(書類の確認) ・来年度予算案作成の準備 30日 13:00～ 第4回学術誌編集委員会 ・提出論文の確認 ・評価判定の確認 ・外部再査読発送準備(書類の確認)	学術誌編集委員にリストの作成と配布(田中) ・査読者に到着確認のメール送信 ・執筆者の返却書類の準備(論文修正のお願い、査読結果、論文原本) 学術誌編集委員にリストの作成と配布(田中) ・外部査読者 依頼書(お願い文書、査読報告書、返信物チェック) ・執筆者へ論文種類変更についての文書作成(種類変更の可能性をあることを投稿者に示す文書)
12月	26日 執筆者に返却	3日 外部再査読発送 25日 外部査読者から再査読返却	26日 第5回学術誌編集委員会 ・評価判定の確認 ・執筆者に返却の準備(書類の確認) ・巻頭言の依頼 ・査読者に謝礼の発送	学術誌編集委員にリスト配布 ・査読者への謝礼文書(3パターン有) ・商品券の購入 ・査読者住所確認
1月			研究ノート・原著の論文に関して査読者からの再査読返却があった順に対応	投稿規定、執筆要領の修正案を検討
2月	1日正午 修正論文提出(最終版)締め切り 執筆者へ初校返却 20日正午 締め切り	初旬頃 業者に印刷の依頼 中旬頃 業者より初回校正 下旬頃 業者へ初回校正戻し	5日 13:00～ 第6回学術誌編集委員会 ・評価判定の確認 ・校正原稿の確認 ・巻頭言、編集後記、写真等の確認 ・発送先の確認 21日 13:00～ 第7回学術誌編集委員会 ・修正箇所の確認 ・執筆者へ返却準備 28日 13:00～ 学術誌編集委員による確認	論文査読結果報告文書の作成(最終的な論文種類の決定を投稿者に示す文書) ・別刷り枚数の確認 ・印刷製本費 ・論文掲載順番決定
3月	初旬 2回目の校正返却 15日 正午 2回目校正の提出	初旬頃 2回目校正 2回目校正内容最終確認 下旬 納品、発送	初旬 学術編集委員による確認 15日 10:30～ 第8回学術誌編集委員会 ・修正箇所の確認 27日 発送作業・大学内での配布 《その他》 ・委員会用引き出しの鍵の返却 ・委員会用引き出しの中(論文等の書類)の整理	・発刊、送付の案内状確認(1パターン) ・封筒とレターパックの確認

2-8. 広報委員会

1. 構成メンバー（敬称略）

委員長：中川ひろみ 副委員長：川嶋元子

委員：坂田直美, 中島真由美, 出石万希子, 栗原はるか, 中村美由紀, 大塩佳名子,
川橋けい子

2. 所署事項

- 1) 看護学部の広報活動に関する活動における各部局との連絡調整に関すること
- 2) 高校訪問、オープンキャンパス等の計画、実施に関すること
- 3) ホームページの企画・記事記載に関すること
- 4) 高大連携事業の運営に関すること

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等
第1回	2018年4月16日（月）	1. 広報委員会の役割分担と目標について 2. 平成30年度大学案内パンフレット作成状況 3. オープンキャンパスの日程 4. 高校訪問、模擬授業の予定 5. ホームページ・フェイスブック掲載年間予定 6. 新入生のアンケート結果
第2回	2018年5月11日（金）	1. 全学広報委員会報告（予算・年間計画） 2. 平成30年度オープンキャンパス企画検討 3. 高大連携（八幡高等学校） 4. パンフレット作成などにおける写真撮影
第3回	2018年8月4日（月）	1. オープンキャンパスの運営について 2. 広報委員会予算確定 3. ホームページの更新について
第4回	2018年7月5日（木）	1. オープンキャンパスについて 2. 高校訪問（学生課との合同訪問）について 3. 入試相談事前調査票項目について
第5回	2018年8月1日（水）	1. 8月5日、6日のオープンキャンパスの流れの確認 2. 高校訪問の結果（7月実施分） 3. 八幡高校高大連携の運営について 4. ホームページのディスプレイ広告
第6回	2018年9月13日（木）	1. 今年度のオープンキャンパスの総括 2. 高校訪問について（人間学部、事務との役割分担） 奨学金のチラシ、看護学部ミニパンフレット作成（学生課との共同作成） 3. 入試対策講座について 4. パンフレットについて 5. 予算について 6. 八幡高校との高大連携講座調整会議について

年次報告書（2018年）委員会

第7回	2018年10月1日（月）	1.オープンキャンパスの日程について 2.次年度予算 3.高校訪問について 4.パンフレットの進捗 5.入試相談会の結果評価 6.八幡高校との高大連携講座について 7.学生広報委員会について 8.リクルート偏差値マネジメント学習会
第8回	2018年11月5日（月）	1.入試相談会時のミニオープンキャンパスについて 2.八幡高校との高大連携講座の調整 3.パンフレットの内容調整
第9回	2018年12月3日（月）	1.キャンパスライフレポート 2.パンフレットの進捗 内容調整と教員への依頼事項の確認 3.3月オープンキャンパス内容の確認
第10回	2019年1月18日（金）	1.全学広報委員会から次年度予算と計画について 2.今年度の事業実施内容と次年度計画について 3.3月のオープンキャンパスについて 4.入学生へのアンケートについて 5.パンフレットの進捗と内容確認
第11回	2019年2月8日（金）	1.パンフレットの進捗と内容確認 2.3月オープンキャンパスについて 3.予算について
第12回	2019年3月19日（火）	1.パンフレットの進捗と内容確認 2.平成31年度高大連携講座の報告 八幡高等学校連携講座会議の報告

4. 委員会総括

今年度は、全学広報委員会において、人間学部、学生課、事務部との調整を行い、大学教育評議会で議案を審議し、事業を実施してきた。高校訪問やオープンキャンパスの内容、日程、役割分担を行い、学生広報委員会を加え、学生の意見も反映した効果的な運営を進めてきた。オープンキャンパスでは、別科助産専攻、大学院看護学研究科との調整を図った。高校へ配布するパンフレットに加え、奨学金のチラシや看護学部ミニパンフレットを学生課と共同で作成し、学生の写真やコメントを掲載し、広報活動の内容の充実を図った。

2-9. キャリアアップセンター

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：流郷 千幸
- 2) 委員：安孫子尚子, 桶河華代, 井之口文月, 山根加代子, 村井博子, 森本恵り子,
川橋けい子

2. 所掌事項

- 1) キャリアアップ講座・キャリアジャンプ講座に関する事項
- 2) 卒業生研修会に関する事項
- 3) キャリアアップ講座修了生の追跡調査に関する事項

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等	備考
1	2018年4月27日（金） 18：20～17：30	1. キャリアアップ委員会の役割分担・活動計画について 2. キャリアアップ講座、ジャンプ特別講座の申込状況 3. 卒業生研修会について	
2	2018年5月15日（水） 11：00～12：00	1. キャリアホップ講座（第1回）役割・タイムスケジュール・個人情報の使用にかかる承諾・アンケート用紙について 2. 卒業生研修会（卒後2・3・4年目）役割分担調整について	
3	2018年6月20日（水） 11：00～12：00	1. キャリアホップ講座（第1回）の直前・当日準備について 2. 講座開催中の委員配置・キャリアステップ（第2回）サポーター（教員）について 3. 卒業生研修会（卒後2・3年目）案内文郵送について 4. 卒業生研修会進捗状況について 5. 卒業生研修会に関する情報配信について	
4	平成30年6月25日（月） 18：20～17：10	第1回キャリアホップ講座開催 （9：15～16：00） 1. キャリアホップ講座の振り返り 2. キャリアステップまでの役割分担、必要物品の購入手配等	43名
5	2018年7月17日（月） 18：20～17：10	1. キャリアホップ講座のアンケート結果報告 2. キャリアステップ講座のタイムスケジュール 3. 卒業生研修会（卒後2・3年目）案内文郵送について 4. 大学内の情報配信について	
6	2018年7月25日（水） 18：20～17：10	第2回キャリアステップ講座開催 （9：30～16：00） 1. キャリアステップ講座の振り返り 2. キャリアアップ講座のタイムスケジュールについて 3. 卒業生研修会参加者の応募状況と呼びかけについて	43名 （うち院生6）
7	2018年8月9日（木） 18：00～17：20	1. キャリアアップ講座の直前・当日準備について 2. キャリアアップ講座のアンケート内容変更について 3. 個別研究サポートの領域配分について	
8	2018年8月17日（金） 18：30～17：30	第3回キャリアアップ講座開催 （9：30～16：00） 1. キャリアアップ講座の振り返り 2. 個別研究サポートまでの役割分担、必要物品の購入手配等 3. 卒業生研修会（卒後2・3年目）役割分担について	43名
9	2018年8月31日（金） 13：00～13：45	第4回個別研究サポート講座開催 （10：00～12：00） 1. 個別研究サポートの振り返り 2. キャリアジャンプ講座までの役割分担、物品の購入手配等 3. 卒業生研修会（卒後2・3年目）役割分担について	43名
10	平成30年9月20日（木） 17：00～17：30	卒業生研修会（卒後2・3年目）開催 （9：50～15：30） 1. 卒業生研修会（卒後2・3年目）の振り返り 2. キャリアジャンプ講座について最終確認	12名
11	2018年9月21日（金） 17：00～17：30	キャリアジャンプ講座開催 （9：30～16：00） 1. キャリアジャンプ講座の振り返り 2. 平成30年度活動報告書作成の役割分担の確認	17名 （うち院生5）
12	2018年11月2日（金） 18：30～17：20	1. キャリアアップ講座の振り返り 2. 卒業生研修会（卒後1年目）の案内文について 3. 平成30年度年間計画（案）について 4. 活動報告の執筆について	
13	2018年11月28日（水） 14：00～14：35	1. 卒業生研修会（卒後1年目）案内文の発送について 2. 平成31年度キャリアアップ講座、卒業生研修会について 3. 平成30年度活動報告書作成について	

年次報告書（2018年）委員会

14	2019年1月7日（月） 13：00～14：30	1. キャリアアップ講座の名称変更について 2. 卒業生研修会（卒後1年目）の参加者数、懇親会について 3. 平成30年度 活動報告書の執筆・印刷工程について	
15	平成31年2月6日（水） 17：00～18：00	1. 卒業生研修会（卒後1年目）役割分担について 2. 2019年度年間計画（案）講師検討 3. 平成30年度 活動報告書の内容確認	
16	2019年3月16日（金） 16：30～17：30	1. 平成30年度 活動報告書の進捗状況 2. 平成31年度キャリアアップ講座申し込み方法について 3. 卒業生研修会（卒後1年目）最終確認	
17	2019年3月22日（金） 17：30～18：30	卒業生研修会（卒後1年目）開催 （13：00～15：10） 懇親会 （15：20～16：30） 1. 卒業生研修会（卒後1年目）の振り返り	24名
18 臨時	2019年3月22日（火） 16：30～17：30	1. 平成30年度キャリアアップ講座案内状の発送準備	
19 臨時	2019年3月25日（月）	1. 平成31年度キャリアアップ講座案内状発送	

4. 委員会総括

「キャリアアップ・キャリアジャンプ講座」参加者のアンケート結果は好評価であったが、例年定員を上回っていたため、次年度以降は定員を厳守することとした。また、第4回の研究サポートを研究相談だけでなく、各教員によるGr指導形式にしたことも参加者の満足度を高めた。

「卒業生研修会」では、9月に卒後2、3年目研修「臨床看護研究こと始め」、3月に卒後1年目研修「こんなときどうする？急変対応」を開催し、懇親会も含め良い評価を得た。卒業生数が増えることから次年度以降は、年1回開催、3コースの選択制とした。また、卒業生への連絡がスムーズになるよう卒業時にLINE@（キャリアアップ卒業生専用グループ）に登録してもらうこととした。

2-10. 技術項目検討委員会

1. 構成メンバー（敬称略）

- 1) 委員長：間文彦
- 2) 委員：桶河華代, 中島真由美, 森本恵り子

2. 所掌事項

- 1) 卒業時到達目標の検討
- 2) 卒業時技術項目内容の検討
- 3) 卒業時技術項目の企画・運営に関すること

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等
1	平成30年7月12日（木）	1. 技術項目委員会活動内容の確認 2. 4年生技術項目チェック内容について
2	平成30年9月19日（水）	1. 教授会・学科会議報告 2. 看護系大学における「到達目標2011」の活用実態と背景要因の確認（各領域に修正・加筆依頼）
3	平成31年1月4日（金）	1. 看護系大学における「到達目標2011」の活用実態と背景要因の再確認。各領域に修正・加筆依頼の確認 2. 4年生技術項目チェック内容について 3. 技術項目確認研修会の企画・運営についての検討 4. 学生への連絡方法確認 5. 必要物品の確認、領域別準備物の確認 6. 必要予算の確認
4	平成31年3月12日（火）	1. 技術項目検討委員会規定内容の検討 2. 技術項目確認研修会の企画・運営についての検討 3. 次年度予算について 4. 4年生技術チェック内容のアンケートをもとにした反省・課題

4. 委員会総括

看護系大学における「到達目標 2011」の活用実態と背景要因の確認を委員全員が確認し、技術チェック項目に必要な内容を確認していった。しかし、看護学部内において、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの確認作業が必要であることが確認された。その内容を踏まえて、本年度の企画・運営の作業を行った。

本年度は、昨年度のアンケートを参考として、2日間の自主参加であったことで2日目の出席者が少なくなったことを踏まえて、国家試験後自己採点の午後1事例の演習とした。技術項目チェック演習内容は、昨年度の事例をもとに技術項目チェックリスト、アセスメントシート、アンケート等の作成、必要物品の準備等の作業を行っていった。

技術項目チェック演習終了後の、学生アンケート内容では、技術を再確認できた、最後に演習に取り組み卒業後に役立つ等の意見が聞かれた。しかし来年度は、技術項目内容や演習時期、1日の演習で目的が達成できるのか再検討が必要である。また、教務委員会もふくめ本委員会の役割確認が必要であることが課題である。

2018 年度
聖泉大学人間学部
年次報告書

学部教員・委員会

学部教員活動
(2018年4月～2019年3月)

李艶

【学会発表】

単独：

「充実感と達成動機づけの関係について - 日中大学生を対象に -」
日本心理学会 82 回大会（ 2018 年 9 月 27 日 仙台国際センターにて ） 論文集
ID:3PM071

【国際学術シンポジウム】

単独発表：

「文化心理学視点から、移民について考える」
2018 年 9 月 12 日 ハワイ大学マノア校にて

【日本心理学会研究会活動】

2018 年度 公益法人日本心理学会の研究活動

「文化と心理学研究会」の代表として、研究会の研究活動を運営しました。2018 年度の「A I ・データサイエンスと人間の関係について」の共同研究を行い、また講演会とシンポジウムを主催しました。さらに講演をしました。

講演：

「到来しつつある A I 社会への適応について」
2018 年 12 月 2 日 京都キャンパスプラザにて

【その他】

- 1) 中国海外華人心理学者連合会理事 活動の参加、心理学国際学会の協力活動
(現在まで)
- 2) 日本シルクロード研究会活動の参加 (事務局は関西学院大学) (現在まで)

唐楽寧

2018 年 9 月

【公開講座】

湘潭大学、湖南科技大学、湖南工業大学、湖南工学院、湖南涉外经济学院などの協定大学および湖南外国語職業学院外国語学部での公開講座

(唐楽寧前ページ続き)

【海外諸大学との交流】

湖南師範大学、湘潭大学、湖南科技大学、湖南工業大学、湖南工学院、湖南涉外経済学院などの協定大学および湖南外国語職業学院。湘潭大学副学長、湖南工業大学理事長、湖南工学院学長、湖南外国語職業学院副学長への表敬訪問

2019年3月

【公開講座】

湘潭大学、湖南科技大学、湖南工業大学、湖南工学院、湖南涉外経済学院などの協定大学、および湖南財政経済学院外国語学部での公開講座

【海外諸大学との交流】

湘潭大学、湖南科技大学、湖南工業大学、湖南工学院、湖南涉外経済学院などの協定大学のほかに、新たに湖南財政経済学院を訪問し、同大学の学長に表敬訪問

【市民向け講座】

2018年10月～2019年2月

市民向け「中国語講座」初級クラス3期12回開講

市民向け「中国語講座」中級クラス3期12回開講

脇本忍

実践 単著

- ・落語で楽しむ心理学. 八重山日報 週刊連載コラム
- ・心理学おふさいど. 京都新聞 月刊連載コラム

炭谷将史

【著書】

(共著) 奥田援史・炭谷将史

『遊びの復権』おうみ学術出版会

【学会発表】

5月19日@こども環境学会 『砂場での遊びに現れる場所の意味』

谷口麻起子

第22回日本摂食障害学会学術集会

一般演題4/調査研究② 座長

2018年11月8日（木）万国津梁館

森雄二郎

【学術論文等】

（論文）

「外国にルーツを持つ子どもの教育支援に関する一考察」『同志社政策科学研究』第 20 巻
第 1 号、pp.89-100

（博士学位論文）

『外国にルーツを持つ子どもと社会をつなぐ場の創出に関する実践的研究—つながり支援
を通じた多文化共生社会に向けた試み—』同志社大学大学院総合政策科学研究科政策科学
専攻 博士課程（後期課程）

【学会活動】

日本ソーシャル・イノベーション学会設立フォーラム（2018.11.23）分科会「多文化共生
を再考する—「支援＝被支援」から「学びあいの共同体」へのパラダイムシフト—」コー
ディネーター

【委員会活動】

彦根市 業務見直し検討委員会 委員長

彦根市 多文化共生推進委員会 委員長

彦根市教育委員会 点検評価委員会 委員長

【その他】

NPO 法人 平和環境もやいネット 理事

彦根市国際理解教育推進事業の受託

布井雅人

(学会発表)

布井 雅人・吉川 左紀子 (2018). 受け手の体勢が表情画像の印象に及ぼす影響—対人援助場面を想定した検討—, 日本心理学会第 82 回大会, 宮城, 9 月 25 日～27 日

布井 雅人・吉川 左紀子 (2018). 異人種顔画像の表情とその割合が対象の選好判断に及ぼす影響, 日本認知心理学会第 16 回大会, 大阪, 9 月 1 日～2 日

山口隆介

種別：翻訳

トマス・アクィナス『神学提要』、知泉書館、2018 年 10 月

種別：論文（共著・サード）

脇本忍・富川拓・山口隆介「滋賀国際映画祭論 —まつり・映画祭・PBL の視点から—」、『聖泉論叢』第 26 号

種別：研究ノート（単著）

山口隆介「夢野久作『ドグラ・マグラ』「絶対探偵小説 脳髄は物を考える処に非ず」解釈ノート —脳髄は物を考える処でもある—」、『聖泉論叢』第 26 号

実践：

公開講座「滋賀県とキリスト教哲学」7 月 22 日、聖泉大学

近江楽座「Genius Loci 再活用プロジェクト」

委員会活動
(2018年4月～2019年3月)

2-1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：谷口麻起子
- 2) 委員：唐楽寧、富川拓、多胡陽介、布井雅人、山口隆介、川並真由美、大村一美

2. 所掌事項

- 1) 教育事務に関わる業務
 - ・カリキュラムに関わる業務
 - ・時間割作成・授業担当者決定に関わる業務
 - ・履修登録に関わる業務
 - ・授業に関わる業務
 - ・試験に関わる業務
 - ・成績評価・単位認定に関わる業務
 - ・進級に関わる業務
 - ・卒業研究に関わる業務
 - ・卒業判定に関わる業務
- 2) 学籍に関わる業務
- 3) 学年暦に関わる業務
- 4) 科目等履修生・聴講生・研究生に関わる業務

3. 委員会活動

4月	前期受講状況調査 第1回 期間：4/9～4/27 期限：5/11 第1回委員会（4/10） 議決：Grow-up Week を4月末から実施 協議：発達障害を持つ新入生について、本人、保護者から教員間での周知希望があるので、非常勤講師を含む全教員に周知。一年次留学生について、日本語力に難があるため入門的な日本語教育実施を提案。 第2回委員会（4/24） 議決：プロジェクト演習実態調査を実施。金額については、学生数で分割し、配分する。 協議：学生対応
----	--

5月	<p>前期受講状況調査 第2回 期間：5/1～6/1 期限：6/27 第3回委員会（5/22） 協議：科目等履修生・聴講生募集について、公開科目決定。要項について協議。次年度以降の卒業研究についても協議。 第4回委員会（5/29） 協議：科目等履修生・聴講生募集要項について協議。</p>
6月	<p>第5回委員会（6/5） 審議：学生対応。公認心理師実習費。 協議：プロジェクト演習実習費 科目等履修生・聴講生募集要項を教授会にて確定。 第6回委員会（6/26） 審議：研究生募集要項 報告：学生対応 協議：留学生用カリキュラム</p>
7月	<p>第7回委員会（7/3） 審議：研究生募集要項確定。カリキュラム検討。 報告：学生への特別対応 第8回委員会（7/31） 審議：秋卒業式日程。次年度以降の卒業研究について。 報告：学生対応</p>
8月	<p>第9回委員会（8/21） 審議：後期時間割および不開講科目について 報告：学生対応</p>
9月	<p>第10回教務委員会（9/6） 審議：後期時間割、2019年度卒業研究実施要項 報告：学生対応 協議：プログテストの結果のデータの所在について（IRではなく教務にあるべきではないか）</p>

10 月	後期受講状況調査 第 1 回 期間：10/2～10/19 期限：10/26 第 11 回委員会（10/2） 報告：履修登録にまつわる申し送りについて 前期受講状況調査 第 2 回 期間：10/22～11/15 期限：11/23 第 12-1 回（10/23） 審議：秋入学生の履修について 第 12-2 回教務委員会（10/30） 協議：2019 年度カリキュラム
11 月	第 13 回委員会（11/6） 協議：2019 年度カリキュラム 第 14 回委員会 審議：2019 年度科目担当者、時間割り案、プロジェクト演習予算執行について 協議：2019 年度シラバス作成要項、履修規程の変更
12 月	第 15 回委員会（12/4） 審議：2019 年度科目等履修生について募集要項と開講確認の手順。 第 16 回（12/18） 審議：シラバス作成、次年度カリキュラムマップ、2019 年担当者、2019 年度科目等履修生・聴講生 報告：次年度学年暦 協議：卒業論文の閲覧
1 月	第 17 回委員会（1/22） 審議：2019 年度科目担当者、人間学部学年暦 報告：新年度スケジュールの作成 協議：開講科目のナンバリング、中期目標・計画素案について
2 月	第 18 回委員会（2/5） 審議：シラバスチェック、学則変更、試験不正 第 19 回委員会（2/20） 審議：卒業判定、進級判定、2019 年度時間割、2019 年度担当教員割り振り 第 20 回委員会（2/26） 審議：新年度ガイダンス担当者 報告：PROG テスト 1 月実施分の結果の扱いについて 協議：中期目標・計画素案、留学生カリキュラム。
3 月	第 21 回委員会（3/19） 審議：新年度ガイダンス、次年度担当者について 報告：2018 年度総括

4. 総括

【良かった点】

- ✓ カリキュラム案や履修要項の編集などを、前年度よりも早いタイミングで実施できた。
- ✓ 2019年度だけでなく、2020年度も視野に入れる形で、科目担当者の検討ができた。
- ✓ 看護学部・大学院等の授業依頼について、教務委員会として把握できた。
- ✓ 教授会に成績不振者リストを一定間隔で挙げたことにより、退学しそうな学生に対して平成29年度より情報共有の質が高まった。また、そのことにより教員全体で退学防止に関する意識が高まった印象を受ける。
- ✓ 谷口委員長の発案により、受講状況調査を2回行ったことは授業欠席の観点から大変意義ある者だと考えられた。

【改善点】

- ✓ 非常勤講師への依頼タイミングをもう少し早くできれば、時間割案の作成・公表に余裕ができると考えられる。
- ✓ シラバスチェックのスケジュールを考えると、シラバスの依頼を前倒し(12月中?)する必要があると感じる。
- ✓ カリキュラムマップ・カリキュラムツリーと授業内容の対応を調えるべく、マップ・ツリーの教員への周知を図る必要がある。
- ✓ 今年度は、特に保護者会を実施しなかったが、成績不振者やその他の学生、保護者の動向も含めて、実施の可否を検討する必要がある。
- ✓ 年度当初の退学者防止の役割内容について“留年学生への対応(見込み含む)”、“卒業不可学生の対応(見込み含む)”と書かれてあるが、成績不振者のリスト更新以外、特に実施した対応はなかった。基本的には、ゼミの先生に情報を届けるのが主任務だと思うが、他に実施すべき内容があれば教えて頂きたい。
- ✓ 2回生のゼミ担当をキャリアデザイン B 担当者としたが、受講者数や授業内容によって対応のしやすさなどが異なり、曖昧さが残る点もあった。2019年度は、基礎ゼミ CD にその役割が戻るが、面接の実施を盛り込むなどで、ゼミとしての機能を以前よりも協調していく必要がある。

【確認】

- ✓ 非常勤講師への依頼は、決定している先生に関しては早めに依頼を行うことが確認された。
- ✓ 科目ナンバリングを進めていくことが確認された。
- ✓ カリキュラムマップ・ツリーの周知は FD 委員会に依頼することが確認された。
- ✓ 授業資料の manaba へのアップの呼びかけを行うことが確認された。
- ✓ 再試験の対象科目について検討していくことが確認された。

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：富川拓
- 2) 委員：李艶、小澤克彦、山越章平、那須由美子、北川慎悟

2. 所掌事項

- 1) 学生生活に関わる業務
 - ・学生の自主活動(課外活動・ボランティア等)に関わる業務
 - ・学生の自治に関わる業務
 - ・学生の団体(クラブ・同好会等)に関わる業務
 - ・学生の健康に関わる業務
 - ・学生の安全にかかわる業務
- 2) 奨学金(外部)にかかわる業務
- 3) 学長表彰・学長奨励表彰にかかわる業務

3. 委員会活動・総括

業務名	業務内容	2018年度 実施状況
学友会	学友会の活動	4月：入学式校内案内、クラブ・サークル紹介、新入生歓迎会 5月：球技大会(ドッジビー) 6月：アートフェスタ勝負市への参加(彦根花しょうぶ通り主催) 7月：七夕まつり 8月：万聖祭準備 10月：愛荘町かまど祭りへの参加(愛荘町商工会主催、)ご当地キャラ博 in彦根への参加(彦根観光協会主催) 11月：滋大祭への参加(滋賀大学主催)、万聖祭 12月：クリスマス会 3月：卒業パーティへの参加(予定)
(総括)		<ul style="list-style-type: none">・学生自治組織であるが、実態としてはイベントサークルのようになってしまっている。2018年度中に学友会会則を改正し、2019年度から新たな体制で運営をしていく計画であったが、思ったように進めることが出来なかった。2019年度には必ず改正を行い、学生主体の体制を作り始めていきたい。・イベントは昨年度までの実績もあり、それなりの活動量を保つことができている。人数も例年並みと多くないため、これ以上の活動を望むのは難しいと思うが、学友会費の執行状況や学生生活に関わる意見の集約等、本来の学生自治に関する運営についても指導していきたい。・学友会本部の役員が看護学部のみで構成されている。執行委員に人間学部の3回生が2名在籍しているが、人間学部の学生が参入できるよう環境を整えていきたい。

業務名	業務内容	2018年度実施状況
留学生 学友会	学友会の活動	9月：2018年度秋卒業者・卒業パーティ（ホテルニューオウミ） 12月：留学生学友会副顧問として山口先生が就任 留学生集会 3月：留学生集会（予定）
<p>〈総括〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、留学生学友会活動が停滞しており、学友会長等、役員を選出もできない状況であった。 ・留学生学友会費について、現在、秋卒業者の卒業パーティしか実施していないので、留学生の意見を基に年間計画を立案する必要がある。 ・組織として活動を再開、活性化するために副顧問をおき、留学生に対しても組織として、会長、副会長、会計等の役員を選出するよう要請した。 ・3月の集会にて、会長等の役員を選出する予定である。 		

業務名	業務内容	2018年度 実施状況
万聖祭	万聖祭の支援	3月：万聖祭実行委員会立ち上げ、幹部の決定 5月：企業回りハガキの作成・送付 6月：企業回りマナー講座 8月～10月：準備期間のサポート、会議への出席 11月：当日（17日・18日）のサポート 12月：万聖祭総括、万聖祭実行委員会打ち上げ
<p>（総括）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の役割について、指導の一貫性を保つために、さらに細かなルールを作成し、共通理解を図る必要があると感じた。 ・一部の学生に特に負担が大きく、業務のバランスを調整していく必要があると感じた。その際、学生のみで協議をすると揉め事に発展していく傾向にあるため、実行委員長や部署長と細かな打ち合わせが必要である。 ・今年度は会議を開いて協議をし、物事を決定していくという流れが作れていた。しかし、何故会議を開催する必要があるのかや、何のための会議なのかといった点については、依然、担当者側が誘導していく必要がある。次年度は実行委員会の新体制が固まってきた時点で、会議の開催意義や方法についても指導していきたい。 <p>（看護学部企画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部の企画は2年生の学祭実行委員が中心に進めた。おおよその内容が決定したところで1年生を交えて打ち合わせを行った。しかし、1年と2年の学年をまたいでの打ち合わせの時間確保が難しく、学年ごとにリーダーを決め調整した。 ・当日までの進め方の計画を明確にしたことで前日準備がスムーズにできた。ただ、2年生の課題が重なり教員の支援が必要であった。また、役割分担をすることで実行委員も学祭へ参加できた。3年生は実習中、4年生は国試対策があり、学部全体として万聖祭の参加が少ない。 ・子どもから年配の方まで、多くの方が参加され良い反応が得られていた。展示ポスターとハンドアウトを作成した。 ・テーマが「自分の健康をみなおそう」であり、地域の方に関心を持ってもらえた。プレゼントとしてマスク、絆創膏、ティッ 		

ジュ、のど飴をセットし喜んでもらえた。子どもの参加も予想していたため、子どもへの説明の仕方など事前に確認していたため問題はなかった。

業務名	業務内容	2018年度 実績
卒業パーティ (人間学部)	卒業パーティ実行委員 会の支援	7月：会場の検討 8月：会場の決定 12月：卒業パーティ概要の通知、実行委員の決定 2月：企画の検討、案内状の作成 3月：卒業パーティの実施
(総括)		
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は会場予約の関係でホテル&リゾート長浜で開催することとなったが、距離の関係で例年より30分遅らせての開催となった。次年度以降、再度開催場所の検討が必要になると考えられるため、早期の会場検討及び仮押さえが必要となる。 ・人間学部は実行委員として毎年、2～3回生が参加しているため、比較的内容は学生が把握できている。しかし、スケジュールや予算については、早期の段階で打ち合わせを行う必要がある。 		

業務名	業務内容	2018年度 実施状況		
クラブ・ 同好会活動	顧問会議の運営	開催日時：6月12日(火) 内容：クラブ・同好会規程の配布。年間スケジュールと提出書類の確認		
	顧問の委嘱	開催日時：6月12日(火) 小山学長より各顧問に委嘱された。		
	クラブ・同好会活動の把握	クラブ長会議に同席し、状況把握に努めた。 今年度は学友会、クラブ、サークル併せて14団体		
	クラブ長会議の支援と 助言	開催日時	内容	出席団体数
		4月25日	年間計画、予算、活動日	11団体
		6月20日	奨励金、クラブボックスの使用法	12団体
7月17日		夏季休業、写真撮影	12団体	
10月10日		万聖祭への参加依頼	12団体	
1月16日	春季休業、決算、年間活動報告	10団体		
クラブ活動奨励金の 選考	2018年度は支給クラブ無し			
(総括)				
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はクラブ活動奨励金の申請はあったものの、辞退があり支給クラブが無い状態となった。 ・全団体は14クラブであるが、学友会及び特別支援クラブを除くと10団体である。ダンス部及びソフトボール部については何年か予算申請もなく、活動も行っていないように見受けられる。今後、降格基準を明確にし、活動できていないクラブ・サークルの部室や予算の取扱いを定めていく必要がある。 ・上記2クラブに限らず、昨年や一昨年と比較し、クラブ・サークル活動が減少傾向にある。 				

業務名	業務内容	2018年度 実施状況
ボランティア	①ボランティア活動支援制度の運用	<p>聖泉大学ボランティア活動支援制度規定に則り運用した。ボランティア活動支援制度の利用件数は3件である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月28日 医師体験ワークショップ 費用：2,964円 参加学生：6名 ・8月8日 のびっこクラブ交流会 費用：13,884円 参加学生：19名 ・9月6日～8日 岡山県真備町災害ボランティア 費用：46,321円 参加学生：3名
	②ボランティア活動の把握	<p>ボランティア参加件数：16件 ボランティア参加学生：128名（重複有）</p>
<p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々、ボランティア活動支援制度を利用する件数や、金額が増えているほか、制度は利用しないがボランティアをする件数も増えている。少しずつではあるが、制度の周知ができてきている傾向にあると言える。 ・地域連携交流センター関係のボランティアが非常に増えてきており、充実した取り組みになりつつあるが、活動参加の申請場所や助成対象など住み分けが曖昧となっている。 		

業務名	業務内容	2018年度実施状況
学生便覧	学生便覧の校正と作成	<p>12月：2019年度学生便覧の打ち合わせ（学生課と担当教員） 校正案の作成（学生課） 各担当部署への原稿依頼（学生課）</p> <p>1月：原稿編集（学生課）、初校（学生課と担当教員）</p> <p>2月：原稿編集（学生課）、再校（学生課と担当教員） 全学学生委員会審議（校了）、データ入稿</p> <p>3月：納品予定</p>
<p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDFデータについてはキャンパスアベニューの掲示板へ掲載を行う。 ・年々内容が増えているため、精査する必要があるのではないか。 ・学生便覧作成の時期を少し前倒しにした方がよいのではないか。 		

業務名	業務内容	2018年度 実施状況
キャンパス アメニティ	ちょっと一言意見箱	<p>①回収月：5・6・7・10・11・12・1・2月</p> <p>②回収担当：学生課 → 学部担当</p> <p>③平成30年度意見箱の概要</p> <p>1) 意見箱投函数：32件（前期16件、後期16件）</p> <p>2) 主な意見の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数、時間を調整して欲しい ・学食のメニューを変えてほしい、増やしてほしい ・ストーブを置いてほしい ・給茶器にお湯を入れてほしい <p>④意見箱以外の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期試験の時期は定期試験勉強と国試受験準備の双方の学生が自習室を利用しており、座席が不足していた。自習スペースを追加してほしい。 ・同期間など、利用者が多いと夕方から夜間に給茶機が利用できなくなることがあった。 ・自習室の喚起が不十分で空気が悪かった。 ・食堂で勉強をしている際、入口のドアが開いていると2階が暖まらないので、常時開放ではなく、ドアを閉めることを徹底してほしい。 ・食堂のエアコンが非常に埃っぽい。 <p>⑤意見対応の流れ</p> <p>学生課 ⇒ 全学学生委員会 ⇒ 各担当部署で内容の検討・対応（事務、各学部教授会） ⇒ 教育研究評議会</p>
<p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年に比べ、意見箱への投函数が非常に多くなっている。同様の意見が同日に投函されていることがあるため、複数人で記入していることが考えられるが、より充実した意見が増えるようさらなる周知を図りたい。 ・昨年度は事務職員へ対する意見が多かったが、今年度に関しては減少している。 ・投函数が増えた一方、いたずらのような投函も非常に目立つため、取扱いについては今後検討していく必要があるのではないか。 ・自習室は基本的小まめのお昼の時間のみ食事可となっているが、夕方などに食事をするのに利用する学生がいる。またストーブ設置時も最大(30℃)まで温度を上げ、点火したままその場を離れるなど基本的なルールが守られていない。今後は自習室使用時のルールを守ってもらえるよう整備と周知をしていく必要がある。 ・現在は年2回、学生への回答を行っているが、前期終了後から年度末までの期間が長くなってしまったため、年3回に増やした方がよいのではないか。 		

業務名	業務内容	2018年度実施状況
研修	新入生合同研修会の企画立案	<p>①研修会の開催（2017年度企画）</p> <p>実施日：4月5日（木）</p> <p>テーマ：大学生活において考えてもらいたい、 たばこ・薬物について</p> <p>講師：草野とし子 先生</p> <p>②2019年度企画の立案</p> <p>実施日：4月4日（木）</p> <p>テーマ：多文化共生、共生社会</p> <p>講師：大日方重利 大阪教育大学名誉教授 臨床心理士</p>
<p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度実施の研修については、問題なく終了したが、講師依頼の時期が遅れたため講師の選定に苦慮した。 ・2019年度実施の研修については、早期に依頼ができたためスムーズに進んでいるが、グループワークの実施を予定しているため、引き続き内容の打ち合わせが必要である。 		

業務名	業務内容	2018年度 実施状況
環びわ・学生支援事業	担当学生の選出	<p>担当学生：中山優希奈（看護学部1回生） 西野尾早希（看護学部1回生）</p> <p>活動テーマ：SDG s</p> <p>活動日：</p> <p>9月28日 第1回学生委員会（SDG s 勉強会&交流会）</p> <p>10月14日 SustainableWeek 体験（立命館大学主催）</p> <p>11月6日 第2回学生委員会（各大学の取り組み発表）</p> <p>11月18日 環びわ湖大学地域交流フェスタ 2018</p> <p>3月16日 SDG s 学生大会（滋賀県立大学主催）</p>
<p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の選出については、学友会へ打診をしていた経緯があり看護学部1回生の中山さん、西野尾さんに決定した。 ・次年度も環びわ学生支援事業について、SDG s の取り組みを行う方針が出されているため、学生にの選出については大学が掲げるSDG s の取り組みに関わっている学生を選出する必要がある。 		

業務名	業務内容	2018年度 実績
危機管理	事故・事件の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・盗難 ・万引き ・熱中症 ・留学生対象弁論大会（世界平和女性連合関係） ・悪質な駐車違反（学生駐車場） ・喫煙問題、立小便（学生駐車場）
	感染症に関する対応	感染症対策委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・食中毒対策（万聖祭） ・結核対応
	危機管理の啓発	① 学生ガイダンスの開催 4月：新入生オリエンテーション 2・3・4年次オリエンテーション 学生便覧に基づき説明 ② 長期休業の注意喚起 全学生に対して、キャンパスアベニューにて周知徹底 7月：夏季休業中の注意事項について 12月：冬季休業中の注意事項について 2月：1・2年次生（看護学部） ③交通安全・禁煙等の見回り・立哨指導 （前期）7月6日（悪天候のため中止）・12日・18日 （後期）10月26日・11月1日・7日
<p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見回り・立哨指導について、通行禁止区域の周知に関しては一定効果が見られたが、駐車場等での喫煙抑止にはなかなか繋がらなかった。また最近では本館1階南側の外階段の下に吸殻や焦げティッシュが落ちていることがあると報告を受けている。また灰皿が置かれている。落ち葉も多く火災の心配があり、学生が入り込んだり、ポイ捨てできないような対策が必要。 ・今年度は自然災害による休講があり、その際の帰宅勧告のタイミングを検討する必要があった。また再三再四帰宅勧告を行っていたにもかかわらず、居残りをして帰宅が困難になった事例があった。 ・後期、学生駐車場の駐車スペース不足が発生した → スペースの確保の問題 		

業務名	業務内容	2018年度 実施状況
奨学金関係	奨学金受給者への指導	4月：「激励」「警告」対象者（3名）と面談 10月：成績不振者（2名）と面談
	奨学生の選考	4月：日本学生支援機構（予約採用） 5月：日本学生支援機構（在学採用） 滋賀県看護職員修学資金（看護学部） 5月：学習奨励費・びわこ奨学金（留学生） 6月：日本学生支援機構（一般学生） 11月：日本学生支援機構返還説明会（卒業生） 12月：日本学生支援機構（臨時採用） 日本学生支援機構奨学金継続願説明会 3月：日本学生支援機構適格認定
	奨学金実績	【2018年度奨学金新規申込者】 日本学生支援機構：（人間学部）21名（看護学部）38名 （別科）3名 滋賀県看護職員修学資金：15名
<p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り選考を行うことができた。 ・今年度の奨学生数は、貸与奨学金238人（併用貸与含む）、給付奨学金5人である。また、日本学生支援機構奨学金を受けている日本人学生の割合は約49%となった。また、今年度から本学でも給付奨学生が在籍しているため、説明会等についてはより配慮していく必要がある。 		

業務名	業務内容	2018年度 実績
学生表彰	学長表彰の推薦と決定	<p>【2017年度学長表彰】 学長表彰対象者： （人間学部）泉祥太、万里川範子、金城朋宏 （看護学部）上田マリナ、大橋巧登、錦見真依 表彰式：6月14日</p> <p>【2018年度学長表彰】 学長表彰対象者 （人間学部）金城朋宏 （看護学部）青西桃花 （別 科）奥村奈菜子 表彰式：3月16日（学位記・修了証書授与式） ※在学生については3月以降に選考を行う</p>
	学長奨励表彰の推薦と決定	<p>【2017年度学長奨励表彰】 （人間学部）金城朋宏 表彰式：6月14日</p> <p>【2018年度学長奨励表彰】 学長奨励表彰対象者： 《個人》（人間学部）佐原将太、姜思義 （看護学部）木谷美琴、小島唯、小西彩菜、吉野愛理 《団体》学生地域連携交流委員10名 男子ホッケー部、女子サッカー部 表彰式：3月16日（学位記・修了証書授与式） ※在学生については3月以降に選考を行う</p>
<p>（総括）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定通りに選考を行うことができた。 ・聖泉大学学生表彰規程について、選考の時期や基準など、一部現状に則していない部分が見受けられるので、今後、規則の改定が必要である。 		

業務名	業務内容	2018年度 実績
その他	委員会予算案の作成	12月：予算（案）の作成 → 2月：予算折衝 2018年度予算執行状況→当初の予算内（3,627,000円）で執行予定
	教育後援会との連携	役員会への出席：4/14・5/19・11/17・1/19・3/2 総会：5月頃予定
	学外会議との連携	6・12月：滋賀県10大学学生担当課長協議会 滋賀医科大学・滋賀県立大学 6・9・12・2月：京滋地区月曜懇談会 京都文教短期大学・京都西山短期大学・ 平安女学院大学・京都外国語大学

(総括)

【予算】

・2019年度予算（案）→5,088,000円

次年度は健康診断の以下の抗体検査の予算を学生委員会で計上する。

- ①風疹一人間学部全学年対象 ②Tスポット（結核）ーコンティフェロンから変更、学部新入生対象

【教育後援会】

・総会参加者の確保に向けて、開催時期変更などの検討が必要。現在、入学式当日に開催する案が出ている（2020年度に向けて検討中）。

【学外会議】

・資料参照（2018年度承合事項一覧）

2-3 進路支援委員会

1. 構成メンバー

委員長：脇本忍、委員：方蘇春、多胡陽介、森雄二郎

学生課長 那須由美子 同課 係長 田中悟

2. 所掌事項

学生の進路支援に関わる業務、資格取得・検定試験合格等の支援に係る業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会（4/17） 報告：支援のため右記雑誌の定期購読を継続、 『教職課程』及び『公務員受験ジャーナル』
5月	第2回委員会（5/15） 協議：集団模擬面接、学内企業説明会を実施方向で調整 報告：進路状況確認 実施行事：5/9 職務適性テストの解説会
6月	第3回委員会（6/15） 報告：説明会について多岐にわたる報告 行事：6/19 個人模擬面接会、学内企業説明会 6/26 公務員試験説明会、学内企業説明会、福祉おしゃべりカフェ
7月	第4回委員会（7/17） 協議：「びわ湖環境ビジネスメッセ 2018 における新卒採用支援企画」について 学生周知を教授会にて依頼 報告：「若者の就職支援に対するアンケート調査（学生用）」を行う
9月	第5回（9/11） 協議：進路ガイダンス・進路登録カード 報告：進路状況確認 行事：9/25 労働法講座開講、インターンシップセミナー開催
10月	第6回（10/9） 協議：資格助成給付内容見直し：卒業後直ちに帰国する留学生の卒業生にも有意義なものとなるよう検討 助成対象とする検定や資格の見直し：掲載内容を充実させる方向で検討 求人案内用チラシ作製着手 報告：4年生進路状況確認。3年生の進路支援内容確認 行事：10/1 SPI 自己分析講座 10/8 就活マナー、自己PR文作成講座 10/22 就活で使えるメールと書類のマナー講座 10/29 電話対応、名刺の受取方と着席マナー講座

11 月	<p>実施行事：11/12 WEB テスト解説&インターンシップフェアガイダンス</p> <p>11/23 インターンシップ合同説明会バスツアー</p> <p>11/30 福祉おしゃべりカフェ 2</p>
12 月	<p>第 7 回委員会 (12/11)</p> <p>協議：次年度予算</p> <p>報告：3 年生進路登録カード提出状況確認、4 年生進路状況確認</p> <p>行事：12/2 インターンシップ博バスツアー</p> <p>12/9 しが就活塾 1 day ワークショップに参加</p> <p>12/17 学内合説の事前ガイダンス開催</p>
1 月	<p>第 8 回 (1/15)</p> <p>協議：本年度総括</p> <p>学生便覧掲載の資格について見直し</p> <p>報告：3 年生進路登録カード提出状況確認、4 年生進路状況確認。</p> <p>行事：1/7 学内業界研究会 I 開催</p> <p>1/21 学内業界研究会 II 開催</p>
2 月	<p>第 9 回 (2/13)</p> <p>協議：総括、資格助成給付対象の拡大および給付金の増額</p> <p>報告：3 年生進路登録カード提出状況確認、4 年生進路状況確認、 予算執行状況</p> <p>行事：2/8 就活解禁直前講座</p>
3 月	<p>第 10 回 (3/14)</p> <p>審議：今年度総括</p> <p>報告：4 回生の進路状況について</p> <p>2. 3 月オリエンテーション実施事項_ (別紙)</p> <p>3. 2019 年度分書籍 (進路・資格等支援分) 購入について</p> <p>行事：3/1 マイナビ EXPO バスツアー</p> <p>3/10 合同企業説明会バスツアー</p> <p>3/26 ハローワーク求職登録</p> <p>簿記検定対策講座説明会 (新 2・3 回生対象)</p> <p>3/27 秘書検定対策講座説明会 (新 2・3 回生対象)</p> <p>3/28 「IR 情報」に基づく企業分析講座 (新 4 回生対象)</p> <p>特別クラブ対象就職セミナー (新 4 回生対象)</p>

4. 資格取得・検定試験合格等の支援の実績

資格取得助成給付実績比較

2019年3月20日 作成

学生課(進路)

※今年度は見込み含む

検定試験名称	区分	単価	2018年度		2017年度		2016年度		
			給付者数	給付額(計)	給付者数	給付額(計)	給付者数	給付額(計)	
心理系	心理学検定	特1級	6,500	0		¥0	1	¥6,500	
		1級	5,000	1	5,000	¥0	1	¥5,000	
		2級	3,000	0	0	¥9,000	2	¥6,000	
	産業カウンセラー	6,000	0	1	¥6,000		¥0		
	メンタルヘルスマネジメント	ラインケアコース	3,000	0	0	¥0		¥0	
	セルフケアコース	2,000	0	0	¥0		¥0		
健康系	幼児体育指導者	3,000	5	15,000	11	¥33,000	9	¥27,000	
	健康運動実践指導者	3,000	0	0	¥0		¥0		
	JATI認定トレーニング指導者	3,000	0	0	¥0		¥0		
ビジネス系	秘書検定	2級	2,000	0	3	¥6,000		¥0	
		3級	1,000	1	1,000	6	¥6,000	1	¥1,000
	サービス接遇実務検定	2級	1,000	0	0	¥0		¥0	
	日商簿記検定	2級	2,000	4	8,000	3	¥6,000	1	¥2,000
		3級	1,000	19	19,000	17	¥17,000	5	¥5,000
	ビジネス心理検定	初級	2,000	1	2,000	7	¥14,000	8	¥16,000
		中級	3,000	0	0	¥0		¥0	
ファイナンシャル・プランニング	2級	5,500	0	0	¥0		¥0		
	3級	4,500	0	0	¥0		¥0		
福祉系	介護職員初任者研修課程修了	3,500	0	0	¥0	1	¥3,500		
	福祉住環境コーディネーター	2級	2,000	0	0	¥0		¥0	
		3級	1,500	0	0	¥0		¥0	
	手話検定	500	0	0	¥0	1	¥500		
ピアヘルパー	1,000	0	0	¥0		¥0			
語学系	日本語ワープロ検定	初段	3,500	0	0	¥0		¥0	
		1級	2,500	0	0	¥0		¥0	
		準1級	2,000	0	1	¥2,000	1	¥2,000	
		2級	1,500	1	1,500	¥0	1	¥1,500	
		準2級	1,000	3	3,000	6	¥6,000	4	¥4,000
		3級	500	1	500	1	¥500	3	¥1,500
	文書デザイン検定	1級	1,000	0	1	¥1,000		¥0	
		2級	500	0	0	¥0		¥0	
	プレゼンテーション作成検定	1級	2,000	0	0	¥0		¥0	
		2級	1,000	0	1	¥1,000		¥0	
	日商PC検定(データ活用)・(文書作成)	2級	2,000	0	0	¥0		¥0	
		3級	1,000	0	0	¥0		¥0	
	情報処理技能検定(表計算)	ベーシック	500	0	0	¥0		¥0	
		初段	3,000	0	0	¥0		¥0	
		1級、準1級	2,000	14	28,000	8	¥16,000	9	¥18,000
2級、準2級		1,000	17	17,000	5	¥5,000	3	¥3,000	
3級		500	3	1,500	2	¥1,000	1	¥500	
ITパスポート試験	5,000	0	0	¥0		¥0			
漢字検定	2級	2,500	0	0	¥0		¥0		
	準2級	1,000	0	0	¥0		¥0		
	3級	500	0	0	¥0		¥0		
	日本語検定(日本人用)	2級	2,500	0	0	¥0		¥0	
		3級	1,000	0	0	¥0	1	¥1,000	
		4級	500	0	0	¥0		¥0	
	日本語能力試験(留学生用)	N1	3,000	21	63,000	7	¥21,000	3	¥9,000
	ビジネス日本語能力テスト	J1	3,000	0	0	¥0		¥0	
		J2	1,500	0	0	¥0	4	¥6,000	
	中国語検定	4級	1,000	0	0	¥0		¥0	
		準4級	500	0	0	¥0		¥0	
	実用英語技能検定	1級	6,500	0	0	¥0		¥0	
準1級		3,500	0	0	¥0		¥0		
2級		2,000	0	0	¥0		¥0		
準2級		1,000	0	0	¥0		¥0		
TOEIC	695点以上	3,500	4	14,000	3	¥10,500		¥0	
	595点以上	2,500	1	2,500	1	¥2,500	3	¥7,500	
	545点以上	2,000	0	0	¥2,000	1	¥2,000		
	445点以上	1,000	0	0	¥1,000	2	¥2,000		
合計		96	181,000	89	¥166,500	66	¥130,500		
昨年度比		108%	109%	135%	128%				

※見込み
 日商簿記検定(2級)14名(計28,000円)
 日商簿記検定(3級)10名(3,000円)
 看護学部生
 2017年度3名(表計算、文書プレゼン、幼児体育)
 2106年度3名(日本語ワープロ、秘書、手話)

※ホームページ作成、情報処理(データベース)は2018年度以降削除

5. 総括（全体の骨子）

1. 企業・求人等の開拓や就職動向の把握、学外情報の入手と精査の強化
2. 進路担当部署の機能強化
 - ・学内担当職員の能力の向上、専門の外部講師との連携構築
3. 資格取得、検定試験合格等の支援強化
 - ・現在の合格者に対する助成金に加え、受験や対策講座の費用補助の推進など
 - ・後援会助成金の有効な活用の検討が必要
4. キャリアセンターの設置
 - ・学外キャリア関連機関との情報共有をはじめとする、就職、進学などに関するプロフェッショナルな諸活動の全てを担う機関として
5. 学生支援委員会の設置
 - ・既存の進路支援委員会と学生委員会の合併により、日常の学生生活から卒業後進路に繋がる一連の支援について考え実践する機関を設置すること

2-4 FD委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：方蘇春
- 2) 委員：李艶、小澤克彦、山口隆介

2. 所掌事項

ファカルティ・ディヴェロップメント(教育機能の向上)に関わる業務

- ・研修会に関わる業務
- ・授業アンケートに関わる業務
- ・教育力を高めるための共通意識形成に関わる業務

3. 委員会活動

7月	前期授業アンケート実施 期間：7/9～7/27
10月	教授会報告：第5回全学FD委員会決議：2018/3/18 全学FD研修会告知
11月	第1回委員会（11/2） 審議：今年度および来年度全学FD委員会 報告：授業アンケート
1月	後期授業アンケート実施 期間：1/7～1/25 第2回委員会 審議：人間学部FD研修会 京都大学コンソーシアムFDフォーラム(3/2～3/3)への参加呼びかけ
2月	人間学部FD研修会(2/28)
3月	全学FD研修会(3/18)に協力 京都大学コンソーシアムFDフォーラム2日目に委員が1名参加

4. 総括

- ・この数年途絶えていた基礎的な授業スキルに関する研修を、この数年以内に就任された先生方のために実施するという明瞭な目的意識を持った計画を立てることができた。
- ・研修会についてのアンケートには、好評価の回答が多かった。

2-5 広報委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：押岡大覚
- 2) 委員：炭谷将史、脇本忍、森雄二郎、布井雅人、山越章平、山根直樹

2. 所掌事項

- 1) 大学広報に関わる業務
 - ・学部の活動に関わる広報
 - ・教員の活動に関わる広報
 - ・学生募集に関わる広報
- 2) オープンキャンパスに関わる業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会（4/10） 議事：パンフレット、ネックストラップ、HP・SNSの活用方法について
6月	第3回委員会（6/5） 議事：高校訪問計画、オープンキャンパス、保護者向けパンフレット、京都つくば開成高校での講義、駅貼りポスター、HPでのSNSの掲載について
7月	第4回委員会（7/3） 議事：オープンキャンパス、リクルート入試出願特集号に人間学部予算で参画する、保護者向けパンフレット、学部紹介1分動画について
8月	第5回委員会（8/7） 議事：高校訪問、オープンキャンパス、季刊誌、進学相談会の実績、京都つくば開成高校について
10月	第6回委員会（10/16） 議事：オープンキャンパス、大学案内、学生モデルの選出、進学相談会、高卒認定試験で配布するリーフレット、新入生アンケート、JATI機関誌への掲載について
11月	第7回委員会（11/29） 議事：オープンキャンパス、大学案内について
12月	第8回委員会（12/19） 議事：オープンキャンパス、大学案内について
1月	第9回委員会（1/15） 議事：オープンキャンパス、大学案内、卒業生インタビューについて

2月	第10回委員会（2/19） 議事：オープンキャンパス、大学案内、卒業生インタビュー、来年度の高校訪問予定について
----	---

2-6 入試委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：末松史彦
- 2) 委員： 菅井美邦、炭谷将史、新美秀和、押岡大覚、那須由美子、永池早苗

2. 所掌事項

入試に関わる業務

3. 委員会活動

定例委員会

入試業務

特記事項：2021年度入学者選抜の変更について、第16回教授会(2月12日)時に予告。

2-7 紀要委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山口隆介
- 2) 委員：森雄二郎、山堀貴彦、山越章平

2. 所掌事項

『聖泉論叢』に関わる業務

- ・『聖泉論叢』発行に関わる業務
- ・『聖泉論叢』頒布に関わる業務

3. 委員会活動

5月	第1回委員会（5/2） 執筆要項改定案を審議（倫理条項挿入）。
6月	第2回委員会（6/6） 本年度スケジュール確定。編集委員会を置くことを検討。 教授会に執筆要項改定案を提出し、倫理的配慮の条項を追加。
7月	第3回委員会（7/3） 編集委員会について協議
8月	第4回委員会（8/7） 報告：投稿希望調査結果報告 審議：投稿希望者全員に執筆依頼を出す 協議：編集委員会について
9月	第5回委員会（9/5） 審議：編集委員会。印刷業者。
10月	第6回委員会（10/3） 審議：編集委員会
11月	11/9 『聖泉論叢』原稿回収。 第7回（11/13） 審議：『聖泉論叢』発行業者選定。編集委員会、今回は中止。
12月	聖泉論叢発行に向けての作業
1月	聖泉論叢発行に向けての作業
2月	聖泉論叢発行に向けての作業
3月	聖泉論叢発行に向けての作業

4. 総括

- ・本年度作業工程の反省を次年度に申し送る。4月の時点でスケジュールを確定させる。